

# 山形ふるさと塾

## 『活動の手引き』

平成 18 年 3 月  
山形県文化環境部

## は じ め に

親から子、子から孫の代へ、ふるさと山形のよき生活文化や知恵、伝統芸能などを教え合い、学び合う「山形ふるさと塾」は、地域の方々自らが、子どもたちに地域の素晴らしい文化等を伝承していく活動であり、山形の将来を担う子どもたちの郷土に対する理解と愛着を育むことにより、未来へ広がる“やまがた”を創りあげるためのものとして、本県文化振興施策の中でも最重点の事項として取り組んでいくこととしております。

本県には、豊かな自然、歴史、風土と人々の関わりの中で形づくられてきた全国に誇る本県固有の文化があります。これらの文化は、地域の方々の連綿と続いてきた継承活動の中で、現在まで受け継がれてきました。

しかし、人口減少や地域コミュニティの希薄化などにより、継承活動が衰退していく例がみられ、今後、「山形ふるさと塾」を全県的に展開していくためには、地域の方々の積極的な取り組みが必要となってきました。

この手引きは、このような地域の取り組みに役立てていただくために、作成したものです。

作成にあたりましては、県内の地域文化等の継承活動の実態調査を行い、124 例の報告をいただきました。御協力いただきました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。この手引きでは、集まった事例の中から、様々な課題を克服して継承活動を続けてこられた例など、みなさまの参考となる事例を中心に紹介しております。

また、継承活動を行っている「語り部（伝承者）」の方々からは、従来の手法では子どもたちに通じないことが多いとお話をよく伺いします。これには、少子化の中で、テレビやゲームに囲まれて育てられた現在の子どもの特性を理解し、適切な指導を行っていく必要があり、そのための指導方法等の紹介も載せております。

併せて、全国の参考となる事例や、地域文化等の継承活動に対する各種助成制度の概要も掲載しました。

この手引きを、地域文化等の継承活動に携わっている方やこれから関わっていこうと考えている方の参考として活用していただければ幸いです。

# 目 次

第1部 子どもたちに分かりやすく伝えるために	1
1 今どきの子どもたちの様子	2
2 子どもの発達段階における特徴	3
3 子どもとの接し方	4
4 指導の進め方	5
5 こんなことに心がけてみましょう	6
第2部 活動事例	7
県内の活動事例の紹介	7
上山藩鼓笛楽(上山市)	8
維新軍楽(天童市)	10
面白(おもじろ)人形芝居(山辺町)	12
香道(中山町)	14
有屋(ありや)少年番楽(金山町)	16
東法田 田植え舞(最上町)	18
安楽城(あらき)のわらべ歌(真室川町)	20
鮭川歌舞伎(鮭川村)	22
戸沢村角川(つのかわ)里の自然環境学校(戸沢村)	24
梓山(ずさやま)獅子踊(米沢市)	26
長井獅子舞(長井市)	28
民話(南陽市)	30
地域の自然、伝統、人を知ろう(川西町)	32
沖小歌舞伎(小国町)	34
山戸(やまと)能・山五十川(やまいらがわ)歌舞伎(鶴岡市)	36
松山能・狂言(酒田市)	38
フェスティバルざっこしめ(三川町)	40
飛龍太鼓の伝承(庄内町)	42
蕨岡(わらびおか)延年(遊佐町)	44
だがしや楽校	46
地域文化の伝承活動実態調査結果(平成17年度実施)一覧	48
付録 全国の事例に見る伝統文化伝承教室の課題等	68
資 料 編	71
伝統文化の保存伝承活動への支援	72
山形ふるさと塾 推進方針	75
山形ふるさと塾の推進イメージ	75

**第 1 部 子どもたちに分かりやすく伝える  
ために**

## 1 今どきの子どもたちの様子

現在の子どもたちの生活を見ていくと、過去の子どもたちにはなかった積極性や流行に敏感なこと、パソコンなどの情報機器に強いこと、あるいは、国際交流に積極的であることなどプラスの面が見られますが、一方でさまざまな問題が生じてきています。

### (1) ゆとりのない生活

現在の子どもたちは、物質的な豊かさや便利さの中で生活する一方で、学校での生活や塾などにかかなりの時間を取られ、睡眠時間が必ずしも十分でないなど、「ゆとりのない忙しい生活を送っています。このような「ゆとり」のない忙しい生活の中にあって「疲れやすい」「朝食がとれない」「何でもないのでイライラする」など、様々なストレスを持っている子どもたちもいます。

### (2) 健康と体力の問題

身長・体重など体格がよくなっている一方、肥満ぎみの子どもの増加、体力や視力の低下など新たな健康問題が生じてきています。これらは、日常生活における体を使った遊びなど、基本的な運動の機会が著しく減少していることと深い関係があると思われる。このような点に焦点を当てた、遊びを支援する活動なども効果的です。

### (3) 社会性の欠如と規範意識の低下

テレビやマスメディアとのかかわりにかなりの時間を取り、疑似体験や間接体験が多くなる一方で、生活体験や自然体験活動の時間が著しく不足し、家事の時間も極端に少なくなってきました。また、友人や兄弟姉妹の数が減少する中で、子どもたちの人間関係をつくる力が弱くなっています。

さらに、子どもたちの規範意識や倫理観の低下も問題となってきました。

子どもたちに、様々な生活体験・自然体験などの活動を十分に与えることが重要です。

## 2 子どもの発達段階における特徴

同じ小学生・中学生といっても学年によって発達段階が大きく異なっています。そのような違いをよく理解して子どもたちとよりよい関係がもてるようにしていきましょう。個人差もかなりありますが、一般的には、以下のような傾向が挙げられます。

### 小学校低学年（1・2年生）

- ・ 何にでも興味関心を強く示し、一生懸命に取り組む。
- ・ 男女の区別なく仲良く遊んだり活動したりすることができる。
- ・ 学校生活のきまりや基本をたくさん学ぶ時期である。

### 小学校中学年（3・4年生）

- ・ 学習に運動に活発に取り組み、個性を発揮する時期である。
- ・ 仲間意識が育ち、学級やグループなどの組織的な活動にも意欲的に取り組む。
- ・ 体験活動などに主体的に参加するようになる。

### 小学校高学年（5・6年生）

- ・ 男子と女子の体格の変化が生じてくる時期である。
- ・ 低学年と一緒に縦割班の活動などでは、リーダーとして活躍できる。
- ・ 学習課題に向かって計画的に学習を進められるようになる。

### 中学1年生

- ・ 部活動などに意欲的に参加し、体格もしっかりしてくる。
- ・ 精神的には女子のほうがやや成長が早く落ち着いている。
- ・ 新しい教科や教科ごとに先生が替わることに慣れる時期である。

### 中学2年生

- ・ 男女の体格の差が著しくなる。異性への意識が高まる時期である。
- ・ 反抗したり自己主張するなど、変化が激しい時期である。
- ・ 社会体験活動を通して、自分の進路を考える。

### 中学3年生

- ・ 自分が決めた進路に向かって、各自最大限の努力を必要とする時期。
- ・ 中学校の最上級生として、学級・生徒会・部活動やクラブ活動などで活躍するときである。
- ・ 受験を前にして不安定になりがちな時期である。

### 3 子どもとの接し方

子どもたちは、地域の人々と話をしたい、一緒に活動したいという気持ちを持っています。では、子どもたちと接するときに、どんなことに留意したらいいのでしょうか？

子どもたちは個性豊かで、その発達にも個人差があります。一概に「年生には、こんな話し方を。」ということはありません。ご自分の子育ての経験や教師からの情報、その場の雰囲気話し方や接し方も変えていきましょう。では、心配のいくつかについてまとめてみます。

子どもたちの反応が心配・・・？

子どもたちからの反応がないからといって心配する必要はありません。最初は緊張しているものです。すぐには反応がない場合もあります。自信を持って子どもたちに接していきましょう。

わからない質問が出されたらどうしよう？

子どもたちは好奇心旺盛です。何でも知りたいという気持ちに満ち溢れていますから、大人には考えもつかないような質問もします。そんな時は、無理に回答せず後で回答する旨を伝えることで十分です。(後で、先生を通じての回答で十分です。)

反抗的な子どもに対してどう接したらよいでしょう？

子どもが「反抗する」ということは、目をかけてもらいたい、かまってもらいたいという感情の表れです。むやみに叱るとかえって逆効果になることもあります。冷静になって、一段高いところから見上げることも必要です。

「いじめ」や「けんか」が起こったらどうしたらいいの？

毅然とした態度で臨みましょう。中途半端な指導はかえって状況を悪化させます。

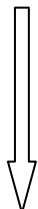
落ち着きのない子どもの対応はどうしたらいいの？

聞くべきときは聞かせる、けがの可能性がある場合は注意する。けじめのある指導をしましょう。

#### **子どもたちをほめよう！**

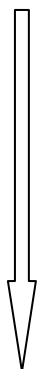
子どもたちは、「人によく見られたい」「新たなチャンス、出会いを契機にがんばりたい」という意識をもっています。ほめられれば、うれしくなり家でも報告し、家族からもほめられるでしょう。できるだけたくさん子どもたちを認め、ほめてあげてください。

### STEP1 導入 こころをほぐそう



あいさつをしましょう  
気持ちよいあいさつはよい印象を与え、よりよい関係を築きます。  
自己紹介をしましょう  
簡潔に、時にはユーモアを含めて。

### STEP2 展開 ひきつけよう



子供の心をつかむには  
「おもしろそうだな」「次は何をやるんだろう」とやる気・関心を示すよう工夫しましょう。具体的な物や映像を見せたり、実物に触れさせたりすることも大切です。  
長時間の講座は逆効果です  
子供たちとの対話をしながら、子どもの考えや意見を引き出しながら展開しましょう。  
テーマを深める  
「これをわかってほしい」「こうなってほしい」ということを印象づけましょう。

### STEP3 まとめ ふりかえろう

確認しましょう  
どこまでわかり、どこから未解決なものとして残ったか明らかにしましょう。  
仲間とわかちあう  
活動を通じてどんな感想を持ったか、何を感じたかについて話し合い、子どもたちの想いをみんなで確認、共有しましょう。



## 5 こんなことに心がけてみましょう

子どもが自由に発言できる雰囲気にしきましょう。

- ・発表者を笑ったり相手をばかにしたりするような態度や、自由な発言を妨げるような言動があった場合はしっかりと注意しましょう。

学校や先生、他人の悪口は慎みましょう。

適切な言葉遣いや配慮すべき用語に注意しましょう。

公平に接するように心がけましょう。

- ・ひいきをしてはいけません。
- ・女らしさ、男らしさなどという性差を意識しすぎないで、一人一人その子らしさの特性を認めるよう心がけましょう。

政治的・宗教的中立、営利活動の禁止

- ・子どもたちを対象に営利活動をしたり、宗教に勧誘したりすることは厳禁です。

体罰は、法律で禁じられています。

- ・いかなる理由があろうとも、肉体的、精神的な苦痛を与えてはいけません。

兄弟姉妹や友人との比較はやめましょう。

## 第 2 部 活動事例

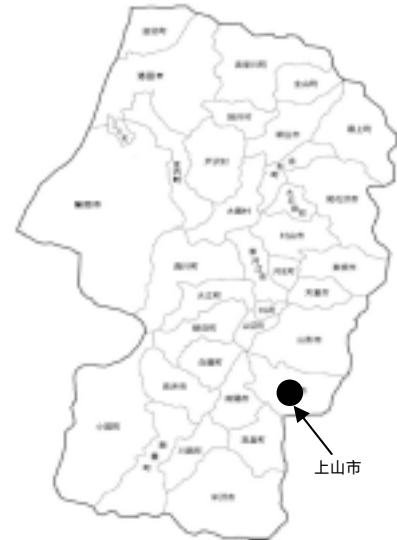
【県内の活動事例の紹介】

（平成 17 年度地域文化の伝承活動実態調査結果より）

伝承活動	上山藩鼓笛楽	種別	軍楽
伝承活動団体名	上山藩鼓笛楽保存会		

ここがポイント！

小学生時代に習った経験のある県外大学生らが集まり、後継者組織を結成。



基礎データ			
所在市町村名(地域名)	上山市		
活動人員	子ども(11)人	大人(6)人	計(17)人
活動年数	33年		
指導者数	2人		
年間活動経費	477千円(財源:月岡神社からの交付金等)		

### 起源・由来等

上山藩鼓笛楽は、戊辰の役の頃に上山藩兵にフランス式の軍隊訓練を行った折に奏楽されたと伝えられ、誰から伝習したかを証する確実な記録に乏しいが、江戸で習得したものではないかと言われている。

廃藩置県後はわずかな旧楽隊員で継承されていたが、明治11年創建された月岡神社の遷宮式に旧上山藩士の甲冑隊と共に参列奏楽した。以降月岡神社・宮脇八幡神社・二日町八幡神社の三社合同秋祭りに参加奏楽していたが、明治42年から中断したものの昭和2年の月岡神社創建50周年記念祭を機に復活して今日に至っている。(上山市無形文化財指定)

## 活動の内容

### 鼓笛楽隊構成

隊旗・小太鼓（２名）・大太鼓（１名）・篠笛（１０～２０名）

伝承されている曲（演奏各曲５分）

「礼式の曲」・・・神前礼拝・戦勝祈願 「早足の曲」・・・出陣

「馳足の曲」・・・士気高揚 「遅足の曲」・・・凱旋

発表の場

春：月岡神社例大祭前夜祭奉納奏楽

秋：上山温泉秋祭りにおける三社御神輿渡御市内行進奏楽

また、昭和６２年度に第５１回民俗芸能公演「日本の太鼓」（東京国立劇場）、平成８年度に大阪御堂筋フェスティバル、平成１２年度に第１９回東北北海道ブロック民俗芸能公演に参加。

## 活動の特徴

上山市立上山小学校にて課外活動で鼓笛楽指導

平成５年頃から上山市立上山小学校において、クラブ活動の時間に指導者が学校に出向き、希望する４～６年生の児童を対象に鼓笛楽指導を行っている。

練習日：木曜日 期間：４月下旬から１０、１１月まで

### 楽譜、ＣＤの発行

これまで楽曲は口伝えに受け継がれてきたが、指導者の高齢化が深刻となり、楽曲を後世に正確に伝えていくため、平成１６年度に楽譜を作成した。

さらに、平成１７年度に文化庁「ふるさと文化再興事業」の助成を受け、昭和６２年度に東京国立劇場で演奏した際に録音したテープを基にＣＤを制作するとともに、衣装、楽器を新調した。

### 平成１７年１０月後継者組織「藩楽会」結成

平成１７年の秋、人出不足で秋祭りへの参加が危ぶまれたが、小学生時代に習った経験のある県外大学生らが集まり後継者組織「藩楽会」が結成され、秋祭りに参加することができた。メンバーの中には、近い将来地元にもどり、鼓笛楽を継承していきたいと意欲をみせる若者もあり、保存会では指導者として育成していく考えである。

なお、「藩楽会」のメンバーは、小学生の時に大阪御堂筋フェスティバルに出演した人がほとんどで、フェスティバルで大勢の観客から脚光をあびた快感が忘れられず、活動の励みになっている。

活 動 名	維新軍楽	種別	軍楽
活動団体名	天童市立天童南部小学校		

ここがポイント！

「上級生の活動」へのあこがれを醸成。

地域が子供たちに発表の場を提供。



基礎データ			
所在市町村名(地域名)	天童市		
活 動 人 員	子ども(114)人	大人( )人	計(114)人
活 動 年 数	30年		
指 導 者 数	2人		
年 間 活 動 経 費	180千円(財源:学校後援会)		

### 起源・由来等

幕末の織田藩は、藩士の軍事訓練の折に士気を鼓舞する為、大太鼓、小太鼓、笛を使った和洋折衷の軍楽隊を編成していた。

幕府軍と政府軍が戦った戊辰戦争では、佐幕派が多い東北大名の中で天童の織田藩は薩摩・長州藩が中心となった政府軍についた。この時、織田藩は奥羽鎮撫使先導役を命じられ軍楽隊が先頭をつとめている。しかし、廃藩置県により織田藩がなくなると軍楽隊も解体した。

明治の中頃、舞鶴山に建勲神社が創建された際に、例祭の武者行列の先導としての楽隊を復活編成し、藩士子弟だけに伝承してきたが、やがて隊員補充に支障をきたし中断された。その後、幾度となく維新軍楽復活に向けた運動が起こったものの、竜頭蛇尾の中でいずれも数年にして消滅した。

このような状況の中であって、昭和52年に天童市立南部小学校が、かつての織田藩城跡に創設さ

れたのを機に、軍楽継承者たちにより組織された保存会が小学校に協力を要請し、学校側も快諾した。以来30年にわたり、小学校の児童により維新軍楽が伝承されている。

### 活動の内容

発表の場は下に見るように数回あり、開催前には総合的な学習の時間や音楽の授業の中で練習する。基本的には、6学年担任教師が指導にあたる。

日程	内容
4月	天童桜まつり（オープニングで演奏）
5月	建勲神社例大祭（演奏しながら市内を行進）
10月	南部小学校祭り（父兄に披露する絶好の機会）
1月	平成鍋合戦

県内各地の鍋料理が一堂に会して味の優劣を競う平成鍋合戦は、天童商工会議所が11年前から開催しているものであるが、毎年1月に行われるこのイベントのオープニングで平成16年から南部小学校の維新軍楽が披露されており、地域が子供たちに様々な発表の機会を提供している。

維新軍楽の活動をするのは6年生全員であり、卒業前に5年生に維新軍楽を引き継ぐのが大きな特徴となっている。6年生から5年生への引継ぎは2月に学校の恒例行事として行われる。5年生の冬休み前に学校で大太鼓、小太鼓、篠笛の楽器ごとの楽譜が配布され休み明けに希望がとられる。1月中に2週間をかけて学校でオーディションが行われる担当楽器が決定する。楽器は基本的に1年間個人持ちとなるが、やっと演奏できると嬉々として楽器を家に持ち帰って練習する子供もいるという。また、6年生のクラスには黒の上下の衣装・半纏・赤の鉢巻を入れる棚が設けられており、他の学年と差別化されているのも子供たちのあこがれの醸成に一役かっているようである。

2月に行われる6年生から5年生への引継ぎは、<6年生2人・5年生2人>のユニットが組まれて行われる。引継ぎにあたっては、6年生の各クラス代表者による実行委員会が引継ぎのセレモニー（2月初旬に行われる。6年生が最後の演奏をし、この引継ぎ会を皮切りに、ユニットごとの引継ぎが始まる。）の段取りから、各ユニットの組合せ案作りまでに幅広く関わる。具体的には、楽器ごとに分かれて2月中の昼休み（10～15分間）時間を利用して行われ、この時は地域の伝承者からの指導協力も得ている。

### 活動の特徴

6年生になるまでの間、子供たちは学校又は地域の行事で上級生が演奏するのをずっと見てきている。6年生になるまでは一貫して「聞く側」であるということが、「演奏する側」に自分も早くなりたいという思いを子供たちの中に自然と育てていくようである。活動には楽器が必要不可欠であること、また学校のカリキュラム上の様々な制約等もあって従来6年生が演奏することとされたのであるが、それがかえって、1～5年生にとっては、「上級生の活動」としての維新軍楽に対するあこがれを醸成することとなっている。

活 動 名	面白（おもじろ）人形芝居	種別	人形芝居
活動団体名	大蕨座（おおわらびざ）		

ここがポイント！

地域住民の評価が子供たちのやる気に。  
人形芝居の復活にはキーパーソンの存在。



基礎データ			
所在市町村名(地域名)	山辺町（大蕨地区）		
活 動 人 員	子ども（29）人	大人（5）人	計（34）人
活 動 年 数	4年		
指 導 者 数	2人		
年 間 活 動 経 費	600千円（財源：市町村総合交付金等）		

### 起源・由来等

江戸時代の終わり頃、峯田三吉という農民が冬季の副業として始めたもので、始まった面白（おもじろ）地区の名前をとって「面白人形芝居」という。当時は、1人の使い手が両手で何体もの人形を操り、太鼓等の鳴り物を演奏する人と2～3人で一座を結成していた。

主に大きな農家の座敷で上演され、大正中期から昭和初期の最盛時には宮城県や福島県等の近県にも出張上演するほどの人気であった。しかし、時代の流れとともにその芸を受け継ぐ人もいなくなり、太平洋戦争後にたった1人残った人形使いが亡くなると、その後完全に途絶えていた。

### 活動の内容

平成10年頃、中学校の3学年合同で「地域の良さを再発見しよう」という学習に取り組んでいる

時に、当時の中中学校教師がこの面白人形芝居に着目したのが人形芝居復活の契機となった。赴任初年に、学習の材料探しをするため地域の歴史等を調べていく中で、かつて面白地区で行われていた「人形芝居」があることがわかった。幸い、人形や衣装も町のふるさと資料館に保存されており、人形芝居を記録した無声映画も発見されたため、これをもとに人形の動かし方等を再現した。峯田家の御子孫の協力も得て、実際に総合的な学習の時間で、手作りの舞台を組み学校で演じてみた。子供たちの反応は「もっとやってみたい」だった。

この教師がキーパーソンとなり周囲の関係者に働きかける中で、父兄、町内の歴史研究家、地元町民らの中にこの芸能を復活させようという機運が盛り上がった。地域の老人等の話を基にオリジナル脚本を作り、前出の資料館が保管していた当時の人形や衣装をそのまま使って、中中学校の全校生が一つの作品に取り組み公演をしている。現在は、地元の歴史を素材にしたオリジナルのシナリオ「玉虫姫伝説」「骨から観音」などがある。

活動しているのは中中学校の生徒（17年度は10人）であり、練習は、学校の総合的な学習の時間を活用している。公演前は放課後や土日にも指導者を招いた稽古も行われ、また、泊まりがけの合宿も実施している。

発表の場は、町内の学校交流会での公演や、老人ホームを慰問しての公演（老人ホームなど様々な所に向いて上演できるように、生徒全員で分担して組立て式舞台も完成させた。）等のほか、平成17年には、様々な規模やジャンルの人形劇団が集う全国最大規模の人形劇の祭典「いいだ人形劇フェスタ」（長野県飯田市、国内外から約200団体が出演）に出演した。この時は、人形担当4人、台詞担当5人、効果音担当1人、大道具小道具担当2人の計12人（うち小学生2人、高校生3名を含む）が参加した。8月上旬に開催されたこの祭典の稽古に夏休みのほとんどをあてたが、大きな大会での発表の機会を得たことは、子供たちにとって大きな励みとなった。

## 活動の特徴

面白人形芝居を立ち上げた時、そして現在まで継続してくる上で、地域住民の理解と協力が不可欠であった。地域全体でこの面白人形劇を育て伝えていこうという意識をみんなが持っており、一度途切れたら再復興は困難との思いから「大蔵を愛する会」の正式な発足に向けて準備を進めている。

地域で公演する機会が何回かあるが、それを見た地域の人から「すごいなあ」という声をかけられるだけでも、大人が想像する以上に子供にとっては非常に大きな励みになるという。地域内に「公演 地域住民の評価 子供の手応え 子供の活動意欲の向上」という好循環ができています。学校側でも、地域住民から一定の評価を得られるよう、子供たちを指導するにあたっては、自己満足に終わらないために常に観客の視点に立って人形劇を見ることを心がけているという。

この中中学校は小学校（鳥海小学校）併設校であり、子供は小学校の時に、中学生が人形芝居をやっているのをずっとみており、直接中学生から人形芝居の話等も聞いているので、子供たちの中に、自分も早く中学生になって面白人形芝居をやりたいという気持ちが自然に芽生えてくるという。このように、中中学校では、小規模校であるが逆にそのメリットを活かして地域、学校、児童生徒が一体となって事業を推進している。



活動名	香道	種別	香道
活動団体名	お香を楽しむ会		

ここがポイント！

活動にゲーム性も織り込みながら、子供たちの興味を引き出す。  
親子で一緒に活動が良い刺激に。



基礎データ			
所在市町村名(地域名)	中山町		
活動人員	子ども(13)人	大人(10)人	計(23)人
活動年数	1年		
指導者数	3人		
年間活動経費	318千円 (財源：会費・(財)伝統文化活性化国民協会助成金)		

起源・由来等

お香は、公家や一部武士階級の間で行われてきた芸事である。庶民に普及してきたのは江戸期に入ってからで、一部の豪商や文化人の中で楽しめるようになった。江戸時代の中期、中山町の大庄屋である柏倉九(く)左工門家では、当時は高貴な芸道とされ公家や上流武士階級のたしなみであり、ようやく一般にも普及しはじめた「香」をたしなんだとの記録がある。当時の香木、香道具、お香の教本類が柏倉家に残っている。

平成15年に本県で国民文化祭が開催されるにあたり、町が中心となり「香道」をテーマに据え「お香の文化フェスティバル」を開催した。

平成15年開催の国民文化祭時に中山町で開催した「お香の文化フェスティバル」のボランティアが中心となり、香道を楽しみながら町に伝わるお香の文化を普及することを目的として「お香を楽しむ会」が設立された。その後、子供の入会もあり(会費は1人2千円だが子供会員は免除されている。)

現在は大人会員10人、子供会員は13人である。内訳は小学生9人、中学生4人で、全員女の子なのが特徴である。

### 活動の内容

稽古は、中山町中央公民館と、県指定有形文化財の柏倉九左工門家で定期的に行っている。一般町民向けの「お香を楽しむ集い」も開催しており、これは作法よりも香りを聞く（香道では香りを「嗅ぐ」とは言わない）ことに重点を置いた体験教室である。

時期	場所	対象	内容
毎月第3水曜日	町中央公民会	一般町民	「お香を楽しむ集い」(お香の体験教室)
毎月第3土曜日	町中央公民館・柏倉家	「お香を楽しむ会」子供会員	「こどもお香教室」(“子供たちの手前での組香”を目標とした教室。6～3月まで開催。)
毎月第2火曜日 第4木曜日	町中央公民館・柏倉家	「お香を楽しむ会」会員	「お香の練習」(技能向上を図るための練習)

子供会員を対象とした「お香を楽しむ会」は毎月第3土曜日に開催されるが、平成17年度は、(財)伝統文化活性化国民協会の「伝統文化こども教室」の助成を受けて実施された。

主な発表の機会は下記のとおりであるが、これは主に大人会員によって行われる。

時期	内容
9月	豊田小学校文化祭
10月	身体障害者療護「光生園」
10月	中山中学校文化祭
11月	中山町芸術文化祭

### 活動の特徴

子供たちの取り組みが非常に熱心であることが大きな特徴である。子供たちの熱心さが逆に大人会員の奮起を促している現状にある。道具を持ち帰り家で練習したいという子供からの要望に応えるため、平成17年度は助成金で香道具を購入した。稽古は基本的に畳の上で行っているが、長時間の正座に耐えられない子が多くお手前用の机と椅子も調達したが、次第に畳での正座にも不思議と慣れてくるといふ。

毎週土曜日の「お香を楽しむ会」では主に作法が中心となるが、「組香(くみこう)」も行う。

（組み香：利き酒と同様の、香りあでの遊びである。香道では、組香において季節に応じたテーマが設定され、それにちなんだ香銘の香木がたかれ、その主題を念頭に置きながら、香を識別する。）

堅苦しい作法だけでなく、組香というゲーム性を持たせることで、子供たちの興味をうまく引き出す結果となっている。最初に挑戦した組香で正解し、以後非常に熱心に稽古を続けている子供会員もいるという。

この活動は、親子が一緒にできる点も一つの特徴である。母と娘がお互いに刺激をし合いながら、稽古しているケースも多く、稽古場で又は家庭でのコミュニケーションにも役立っている。

「香道」は一般的に知名度が低く、興味を持っていても「道」というイメージから敷居を高く感じている人もおり、どれだけ裾野を広げていけるかが今後の課題となっている。

活 動 名	有屋(ありや)少年番楽	種別	番楽
活動団体名	稲沢番楽保存会・柳原番楽保存会		

ここがポイント！

2つの地域の保存会が一体となった継承活動で、人口減少に対応。



基礎データ	
所在市町村名(地域名)	金山町(有屋地区(小学校区))
活動人員	子ども(45)人 大人(37)人 計(82)人
活動年数	21年
指導者数	37人
年間活動経費	480千円(財源:祝儀、町補助金等)

### 起源・由来等

番楽は、中世から近世にかけて、修験者たちが舞った神楽舞の一種で、本来は各地の神社で舞われていた。その内容は、神楽舞に猿楽や幸若楽、呪師、田楽などの要素が加えられ、独自の芸能として発展したものとされている。また、番楽は、能楽大成以前の種々の要素を含んでおり、我が国の芸能史上、極めて注目すべきものがあると言われている。さらに、金山の番楽は、日本列島における南

限の番楽とされ、「五穀豊穡」「悪魔退散」「家内安全」を祈願し、「神室山」の山伏が里に下りてきて舞ったものであり、約 600 年の歴史があると言われている。

現在、金山町の番楽は、有屋（ありや）地区の「稲沢番楽保存会」「柳原番楽保存会」の 2 つの番楽保存会によって伝承されている。特に、「稲沢番楽」は、平成 14 年度に県指定無形民俗文化財の指定を受けている。

演目としては、「神舞」「獅子舞」「三人太刀」などがあり、冒頭の口上、笛・鐘・太鼓と独特の節回しの唄、剣を振りかざしての勇壮な舞は、古より今日に伝えられている民俗芸能の悠久の流れを感じさせてくれる。

有屋少年番楽は、昭和 59 年に有屋小学校に後継者育成を目的として組織したもので、「稲沢番楽保存会」「柳原番楽保存会」の 2 つの番楽保存会によって指導・伝承されている。

### 活動の内容

有屋小学校では、学校教育の一環として番楽を取り入れており、2 つの番楽保存会の指導を受けながら、その保存伝承の取り組みを行っている。

有屋少年番楽としては、小学校の「総合的な学習の時間」のほか、放課後さらには夜間に練習を行い、年 1 回の発表会を行っている。

活動の場は稲沢地区公民館、柳原地区公民館、有屋小学校を活用している。発表の場としては、有屋少年番楽発表会、稲沢番楽・柳原番楽公演会がある。

### 活動の特徴

1 つの地域だけでは、伝承する大人の側、される子どもたちの側の人数が確保でないため、小学校区内にある 2 つの地域の保存会が一体となって子どもたちへの伝承活動を行っている。

小学校の全面的な協力を受け、学校と地域が相互に補完し合いながら、子どもたちへの伝承活動を行っている。

### 今後の課題

有屋少年番楽には、2 つの番楽保存会による指導が必要である。今後の課題としては、保存会本体の維持についても、若い会員の加入は見られるものの、会員の高齢化、会員の勤務等の事情による練習時間の減少などから、伝承活動が困難になりつつある。子どもたちへの伝承とともに、保存会本体の存続についても取り組んでいく必要がある。

活動名	東法田 田植え舞	種別	田植踊り
活動団体名	東法田 田植え舞保存会		

ここがポイント！

地域が小学校の全面的協力を得て、最上町唯一の現存する田植え踊りを子どもたちに伝承。



基礎データ	
所在市町村名(地域名)	最上町(東法田地区)
活動人員	子ども(20)人 大人(48)人 計(68)人
活動年数	20年
指導者数	5人
年間活動経費	415千円(財源:集落自治会補助、会費等)

起源・由来等

東法田田植え踊りは、天明の大飢饉の折(約230年前)、上方(京都)から最上川を経て舟形町を通り最上町まで伝えられたものといわれている。

小正月にその年の豊作を祈願する予祝行事(庭田植え、団子さし外)の一つとして、田の神が人間の里に降りてきて、一軒一軒の家々を回ってその年の豊作を祈願して踊り歩いたものと伝えられている。

約20年前、地域住民によって受け継がれてきた田植え踊りを確実に継承するため、地元小学校の協力を得て、小学生への伝承活動を行うようになった。

## 活動の内容

小学校高学年（４～６年）全員を対象に伝承活動を行っている。

定期練習会を行事の前に地区公民館で練習会を行う。

５月中～下旬（５日間）、９月～１０月（７日間）

発表の場は、次の通りである

< 定例的なもの >

小学校運動会、小学校文化祭、最上町芸能文化祭

< 依頼公演 >

特別養護老人ホーム等福祉施設の慰問、新庄ゆめりあ最上芸能祭、

東京板橋区民祭、仙台圏もがみ友の会総会、大船渡市まつり

## 活動の特徴

田植え踊りは、町内の各集落に伝えられてきたが、種々の理由から、当東法田地区以外の集落では、継承できずに衰退してしまった。

当地区は、小学校区と地域がほぼ一致していることから、小学校との結びつきが強く、小学校の全面的な協力の下、保存会を結成し、小学校高学年全員を対象とした継承活動を展開、学校行事での発表も行うなどし、後継者の育成を行っている。

子どもへの伝承活動とともに、大人たち（親たちや祖父母たち）自身の練習も合わせて行っていることから、踊りの伝承活動を通じた世代間の交流が活発に行われている。

## 今後の課題

公演直前の練習のみとなっているが、今後、定期的な練習を行っていききたい。また、大人の踊り手（指導者）が女性（母親たち）中心となってきたことから、男性の積極的な参加が望まれる。

他地域の踊り等を視察やビデオ記録等を参考に、田植えから稲刈りまで、の農作業に関連する一連の踊りを通して実演できるように、研究していききたい。

活 動 名	安楽城(あらか)のわらべ歌	種別	わらべ歌
活動団体名	安楽城の童歌保存会		

ここがポイント！

小学校で始まった伝承活動を地域が全面的にバックアップ。

わらべ歌を通じて、世代間交流が活発に。



基礎データ			
所在市町村名(地域名)	真室川町(大沢地区)		
活 動 人 員	子ども(20)人	大人(230)人	計(250)人
活 動 年 数	20年		
指 導 者 数	31人		
年 間 活 動 経 費	千円		

起源・由来等

昭和36年安楽城(あらか)小学校児童により、わらべ歌合唱団が結成され、安楽城小学校を中心に地域に伝わるわらべ歌の保存伝承活動を行っていたが、より確かな保存伝承活動を行うために昭和62年12月に「安楽城の童歌保存会規約」を制定し、地域住民が一体となった保存継承活動を推進してきた。わらべ歌の伝承活動を通して、伝承者と子どもたちの異年齢交流を図るとともに、わらべ歌の中にある地域の自然を思いやる心、感動する心など子どもたちの情操教育の向上を図っていることが評価され、昭和62年に川崎浩良賞、平成13年度に生涯教育功労賞を受賞している。

## 活動の内容

安楽小学校2年生以上の女子で「安楽城の童歌合唱団」を結成し、地域に伝わるわらべ歌を歌い継いでいる。

練習は、年20日程度、発表イベントの前に、安楽城小学校の教室を利用して行っている。地元に残っている元合唱団員と小学校教師が指導にあたっている。

時期	内容
7月	安楽城地区伝承祭
10月	わらしっ子祭
12月	ふるさと子ども伝承祭

## 活動の特徴

地域の小学校と一体となって伝承活動を行っており、低学年のうちから高学年が歌うわらべ歌に慣れ親しんでおり、自然と伝承活動に入っていける環境となっている。

わらべ歌の指導の中心となっている2名は初代合唱団員であり、どの年代にも同じ歌が伝承できる体制となっている。

保護者にもわらべ歌を発表する場を設け、それぞれの練習を通して世代間交流を図っている。昔ながらの衣装で発表を行っており、当時の生活文化への理解も深める機会にもなっている。

真室川町では、当該地域等のわらべ歌、番楽、昔話、囃子など町内の子どもたちが行っている伝承活動を一堂に会した発表会「ふるさと子ども伝承祭」を年1回開催しており、伝承活動に取り組む団体の大きな励みになっている。

## 今後の課題

今後の課題としては、児童数の急激な減少により、小学校女子児童だけによる合唱団の維持が困難になりつつあることが挙げられる。

昔ながらの衣装で発表を行っているが、わらぐつやもんぺなどを作る高齢者が減少しているため、用具の確保が年々難しくなっている。

近年、ストーリー性を持たせて14曲のわらべ歌を歌っているが、それ以外の曲が忘れられてしまう可能性がある。



活 動 名	鮭川歌舞伎	種別	歌舞伎
活動団体名	鮭川歌舞伎保存会		

ここがポイント！

「子ども歌舞伎」を結成し、伝統継承。  
村内全域の小中学生に参加を呼びかけ。



基礎データ	
所在市町村名(地域名)	鮭川村(京塚地区 村全域)
活 動 人 員	子ども(33)人 大人(25)人 計(58)人
活 動 年 数	35年
指 導 者 数	4人
年 間 活 動 経 費	315千円(財源:伝統文化こども教室事業費補助金)

#### 起源・由来等

鮭川村には約220年前から、江戸の役者が村人に教えたのが始まりといわれる地芝居が、石名坂、京塚、上大淵、川口の4地域に伝えられてきた。しかし、これが戦時中からその後継者がいなくなり、衣装の保存などもままならず、長い間衰退していた。戦後も昭和40年代となって、復興の要望が高まり、昭和46年12月の東京新聞に「郷土の歌舞伎を守れ」という記事が掲載され、それを読んだ東京の市川千升歌舞伎劇団の市川千升氏が自分が使った歌舞伎衣装や小道具の寄贈を申し出たこともあり、昭和47年10月、これら4地区の関係者が集まり、4つの村芝居を統合して「鮭川歌舞伎保存

会」を結成し、鮭川歌舞伎の名称で復活した。なお市川氏はその後芝居の指導も行っている。

昭和 62 年に「白波五人男」の演目で公演することになり、子役が必要となったことを契機として、後継者の育成と伝承活動を通じた子どもたちの健全育成を目的に「子ども歌舞伎」を結成し、以後、継続して子どもたちへの継承活動を行ってきた。

#### 活動の内容

公演の前に、村中央公民館等で（夜間約 2 時間程度）練習。年間延べ 3 5 日程度。

保存会の会員が指導役となり、鮭川歌舞伎の成り立ちや芸風などの基本的な事項も含めて子どもたちに教授し、基礎の稽古から上演に至るまでを完全に実施していく。

上演については、鮭川歌舞伎定期公演の中で演目を設け、子どもたちに演じさせている。このほか、小学校の文化祭や各地の民俗芸能大会に出演している。

発表の場としては、鮭川歌舞伎定期公演（毎年 7 月）、大豊小学校文化祭、その他依頼出演がある。

#### 活動の特徴

地域の伝統文化を学ぶことにより、地域住民と子どもたちとのふれあいが実現でき、世代間の交流が促進され、子どもたちに地域の風土や歴史、文化に関心をもたせることができた。

また、子ども歌舞伎経験者の中から、地元に着して鮭川歌舞伎を継承していきたいという子どもも出てきている。

#### 今後の課題

今後は、減少する子どもたちの中でこれからどうやって参加者を維持増加させていくか考えた場合、京塚地区だけの子どもたちだけでは困難なため、18 年度からは、村内全域の小中学生に参加の呼びかけを行っていくこととしている。

子どもたちがさらに意欲をもって活動していくため、発表の場を増やせないか検討を進めている。

また、補助金に頼らずに地域が自主的に継承活動を維持していく仕組みづくりを急ぐ必要がある。

活 動 名	戸沢村角川(つのかわ)里の自然環境学校	種別	地域の自然、環境、文化
活動団体名	戸沢村角川里の自然環境学校		

ここがポイント！

ヨソモンの目で地域の宝を再発見。  
お宝は身近にいっぱいあった。



基礎データ			
所在市町村名(地域名)	戸沢村(角川地区)		
活 動 人 員	子ども(86)人	大人(170)人	計(256)人
活 動 年 数	2年		
指 導 者 数	170人		
年 間 活 動 経 費	千円		

### 起源・由来等

角川地区は戸沢村で最も山間部に位置し、人口も1,200人不足、経済的にも地勢的にも村内で最も恵まれない地区といわれてきた。

平成6年度以降、戸沢村全域で、地域と学校の協働による子どもの育成の取り組みが行われていたが、角川地区も青少年育成村民会議のメンバーが中心となり、ギフチョウなど希少動物の保護を中心に子どもたちに対する環境教育のイベント「南部里地探検隊」を結成活動するとともに、角川ふるさと委員会を結成し学校と地域が連携した地域学習を進めてきた。しかし、この取り組みは、活動が単発的で地域の一部の人の参加で終わってしまうことが多かった。

そうした中、平成15年に大学院生が地域に住み込んで調査活動を行うこととなり、地域の主だっ

た人々と集落や周辺の里山、川を一緒に回って「地域にあるもの探し」地元学の実践を行った。その結果、角川地区に極めて豊かな自然環境や生活のさまざまな知恵、技術、文化が存在すること、同時に、それらが受け継がれないままに廃れようとしていることがわかった。この結果を地区会長が地域住民に訴え、約 100 名の有志によって同年 8 月「角川里の自然環境学校」が設立された。

### 活動の内容

この「学校」は、地域住民の運営によって活動が行われる。、地域資源を活用した住民の手づくりの活動が主なものである。地域住民がそれぞれ、山の学校、川の学校、食の教室、農の学校、もの作り塾、民話・昔遊び塾など得意な分野に登録し、自ら先生役となる。地域住民みんなが主体となる自覚の下で、里山・川の観察会や郷土食講習会、もの作り塾などが行われている。

#### 教育部〈地域文化の学び・継承（世代間交流）・創出の学習拠点〉

山の学校	川の学校	食の教室	農の学校	もの作り塾	民話/昔遊び塾
またぎの文化、里山利用と暮らし、山の環境保全等、山と地域生活にまつわる森の文化の再発見/再評価と学び/継承/創出/発信の拠点	川と地域の暮らしにまつわる川の文化の学び/継承/創出/発信の拠点。水辺の生き物調査、水質調査などの水環境調査拠点	郷土食（伝統食）の再発見・再評価。地域生活における食の文化と技術の学び/継承/創出/発信の拠点。健康的で豊かな食の追及。	地域の農業文化の学び/継承/創出/発信の拠点。昔の農業のあり方の再評価。地域活性化と環境保全型農業への模索拠点。	地域の伝統工芸やわら細工などの生活文化と生活技術の学び/継承/創出/発信の拠点。	地域の伝承、民話（昔語り）、昔遊びの再発見と再評価、楽しみの学習と体験、郷土の学び/継承/発信の拠点。

その外、研究部(コミュニティビジネスへの展開等の研究)、交流部(農村と都市の対流の促進、山村留学ホームステイの受け入れ)、探検部隊(各種イベント・探検の活動実践)、応援部を設置(集落若手メンバーでサポーターも構成)

### 活動の特徴

環境教育活動の中では、地域の里山の荒廃や、川の水質の悪化、かつてとは違う水田環境、もの作りの材料として必要なわらがとれない機械化された農作業工程など、地域を取り巻く様々な状況に住民自ら深く気が付くようになり、こうした「気付き」を基にして、活動は集落の住民がそれぞれのやり方で参加し計画される。それは、子どもたちへの地域学習、そして手づくりの自然再生活動へ向かっていくことになった。

### 今後の課題

今後は、地域ではこの活動を地域内に止まらず、ヨソモン（都会の人々）との交流により、活発化させていこうとしている。学校内へ交流部を設置し、各プログラムをメニュー化しヨソモンへの開放等の都市との対流促進、山村留学・ホームステイの受け入れ促進にも取り組んでいる。里の自然や文化を外部者と共に学び、協働で創り上げながら次世代につなぐ新しい里のありかたを模索している。

活動名	梓山(ずさやま)獅子踊	種別	獅子踊
活動体名	梓山獅子踊保存会		

ここがポイント！

伝統芸能への熱い思いが息の長い後継者育成活動に。



基礎データ	
所在市町村名(地域名)	米沢市(万世町梓山地区)
活動人員	子ども(30)人 大人(50)人 計(80)人
活動年数	29年月
指導者数	2人
年間活動経費	300千円(地区内1戸あたり500円負担)

#### 起源・由来等

梓山獅子踊は、天明(1781~)の頃から始まった由緒ある獅子踊である。上組、下組に別れてそれぞれ継承されてきたが、昭和52年に米沢市の文化財となったことから、保存会活動を一本化した。平成2年から「こども獅子踊」の活動を始め、地域に残る伝統文化の伝承活動を行っている。

梓山獅子踊は、置賜に多く残る連獅子踊と異なり、牡、牝、友の各獅子からなる一人立ちの踊りで、室町末期から江戸初期にかけて広く流布された関東文挾流(かんとうふばさみりゅう)の流れを汲むものとされている。

江戸時代に一時途絶え、寛政九年（1796）から村の若者たちが21年間の苦心を重ね、ようやく復興された。さらに、明治後期から凶作や戦争のため休止となったが、昭和29年に再び復興され、現在に伝わっている。毎年7月8日の梓神社夜祭に上組・下組交替で奉納され、また上組は、8月15日に法将寺でも踊っている。

上、下の踊りはそれぞれ異なり、上組は男性的で勇壮な踊り、下組は女性的で優美華麗さが特徴とされている。平成4年には、県指定無形民俗文化財となっている。

### 活動の内容

小学校1年生から6年生まで、毎年お盆の時期に上組が法将寺で踊る「定例踊」の際に「こども獅子踊」を披露している。夏休みに入ると保存会のメンバーの指導により練習を行う。

### 活動の特徴

「こども獅子踊」を始めた当初は、地域に残る伝統芸能を知って欲しい、是非後継者として継承して欲しいという思いを込めて始めた。後継者問題は完全に解消されているわけではないが、「こども獅子踊」から始めた子どもが成長し、大人の踊り手として活動している例も出てきた。息の長い取り組みではあるが、今後も続けて行きたいと考えている。

最近、小学校の授業でも採り上げられ、子ども用に簡単にした振付けを教えたが、高学年に大人の振付けを教えたところ、一生懸命に取り組んでくれた。これを機会に、昨年「こども獅子踊」も大人と同じ振付けで練習するようになり、地域で披露した際も喝采を浴びている。

地域の理解もあり、多くの子どもたちが参加してくれるようになっているが、それでも年々子どもの数は減少している。二度の復興を経験している市内でも貴重な伝統芸能であり、是非後世に長く伝えて行きたいと考えている。

活動名	長井獅子舞	種別	獅子舞
活動団体名	長井黒獅子研究会		

ここがポイント！

低学年、高学年の2段階で獅子舞指導。

地域の女性たちが、児童に獅子舞の魅力と技術を伝承。



基礎データ			
所在市町村名(地域名)	長井市		
活動人員	子ども(20)人	大人(10)人	計(30)人
活動年数	14年		
指導者数	5人		
年間活動経費	100千円(財源:会費等)		

### 起源・由来等

長井の獅子舞は今から940年前、長井市横町の総宮神社から始まったと伝えられ、現在では市内45ヶ所の神社で行われている。漆黒の獅子舞は険しい顔つきを隠すような、白く長い髪と鼻ひげが顔を覆い、大きく激しい歯打ちで魔を祓い清める。

10メートルもの大幕には獅子が激流を渡るごとく波しぶきが染め描かれ、中には20名ほどの白装束を着た若者たちが入る。

獅子には必ず屈強な「相撲」が警護する。久しぶりに神社から出てお神酒をいただいた獅子を制御しようとするが、なかなか言うことを聞かず逆らおうとする。そこで一番の見所である相撲と獅子との勇壮な格闘が始まる。

獅子は、地域の守り神として親しまれ、人々や家につく厄を払い清め無病息災、家内安全、五穀豊穰の恵みを祈願する。

## 活動の内容

長井黒獅子研究会では、長井市立長井小学校獅子舞クラブと学童保育施設長井市中央児童センターの獅子舞クラブの児童に指導を行っている。

### 【長井小学校獅子舞クラブ】

平成 15 年に長井市を会場に開催された国民文化祭獅子舞フェスティバルがきっかけとなり、クラブ活動の一環として児童が郷土の獅子舞文化を体験することを目的に平成 14 年に結成された。

4 年生から 6 年生の男女 30 名を対象に月 1～2 回の頻度で年間 12 時間程度指導を行っている。イベント等に出演する際はクラブ活動以外にも練習時間を設け特訓を行い、技能向上を図っている。獅子舞や笛太鼓を体験したことのない児童がほとんどであったが、幼少の頃から神社の獅子舞や笛太鼓を見聞きしていたこともあり、すばらしい上達をみせた。

17 年 12 月に開催された「置賜こども芸術祭」に参加したほか、外部から出演依頼を受け、数回公演を行っている。

### 【長井市中央児童センター獅子舞クラブ】

平成 17 年 7 月から 12 月まで低学年の児童約 20 名を対象に 9 回指導を行い、「置賜こども芸術祭」に参加し獅子舞を披露した。またデイサービス施設から依頼を受け、お年寄りの前で獅子舞を披露している。

また、次のイベントに参加するため、18 年 2 月からクラブ活動を再開し指導を行っている。

研究会では、低学年の時から児童が獅子舞を体験することによって基本的な技術を蓄積し、高学年の時に長井小学校獅子舞クラブにおいて、数多くある舞の型を習得してもらえれば、と期待している。

## 活動の特徴

まだ、この地域では、女性が神社の獅子舞の幕の中に入ることはタブーとされているが、10 年ほど前から女性が笛に加わることを許されて以来新しい伝統が開けた。

特筆すべきこととして、平成 15 年 3 月に長井小学校を卒業した児童の母親が集まり、卒業謝恩会で獅子舞を披露したことがきっかけで、獅子舞愛好会「えくぼ獅子舞倶楽部」が結成された。月 2 回の稽古を行い、公演活動を行うほか、長井小学校獅子舞クラブの指導も行っている。

小学校のクラブ活動が行われる日中に男性の指導者を確保することが困難な中、「えくぼ獅子舞倶楽部」の母親たちが、児童に獅子舞の魅力と技術を伝えており、地域の伝統文化を継承していく上で、地域の女性たちが大きな役割を担っている。



活 動 名	民話	種別	民話
活動団体名	語り部養成講座		

ここがポイント！

民話「語り」で大人も子どもも元気に。



基礎データ			
所在市町村名(地域名)	南陽市		
活 動 人 員	子ども(6)人	大人(23)人	計(29)人
活 動 年 数	6年		
指 導 者 数	9人		
年 間 活 動 経 費	108千円(財源:市予算)		

### 起源・由来等

平成5年にオープンした「夕鶴の里」。オープン当初は、地元の語り部の話を聞かせるイベントが中心だったが、その後徐々に「語り」を聞くだけではなく、自分で語ってみたいという人が増えていった。

そこで、夕鶴の里では、貴重な文化遺産である地域の「民話」を後世に残し、民話に興味のある人、

関心のある人に民話の「語り」を学習する場を提供し、民話の「語り」の拡大を図ることを目的として、様々な形で「語り」の講座を開いてきた。

地域の「語り」の指導者も増えてきたことから、平成12年から現在の形での「語り部養成講座」を始めた。講座を始めた当初は、大人の参加者ばかりだったが、今では子どもの参加者も年毎に増えている。

### 活動の内容

6月から9月まで、月2回「夕鶴の里」に集まる。参加者には、学年や語りの経験の有無等でグループに分れてもらい、テキストを参考に、まず自分が語りたい話を選ぶことから始める。選んだ話を一通り覚えた後、声の大きさや語るスピード、感情の入れ方などについて指導を受ける。

他の市町村から語り部を招き、手本として語ってもらうこともある。

### 活動の特徴

地元の語り部の指導のもと、8回にわたり学習した子どもたちは、最終的には大勢の人の前でも語りを堂々と披露できるくらいにまで成長する。

発表の場は、講座の4回目と最終日に設けており、最終回には公開講座として一般客の前で発表する。

また、毎年開催される「民話まつり」にも参加し、好評を博している。1年でやめることなく、2年、3年と続ける子どもが多いのが特徴で、子どもの語り部を絶やすことなく、今後も活動を続けていく予定である。

活動名	地域の自然、伝統、人を知ろう	種別	地域の自然、
活動団体名	まなぼうクラブ		環境、文化

ここがポイント！

活動時間の中で、目に見える成果品を作らせる。

強制はしない。子供たちが参加しやすい自由な雰囲気と仕組みづくり。



基礎データ			
所在市町村名(地域名)	川西町(犬川地区)		
活動人員	子ども(15)人	大人(5)人	計(20)人
活動年数	2年		
指導者数	1人		
年間活動経費	千円(活動により、一人200~300円の実費負担)		

起源・由来等

学校週5日制に伴って、土曜日を活用して子供たちに、地域の自然・環境・文化を体験させるために平成16年から始まった活動である。「まなぼうクラブ」は地域の個人が主宰している活動であるが、内容によっては町(公民館)や地域と共催しながら活動している。

活動の内容

川西町犬川地区の小学校3年生以上を一応の対象としているが、高学年は学校行事やスポーツ少年団等があるため、結果として小学校中学年が活動の中心となっている。年度はじめに学校の協力を得て「まなぼうクラブ」のお知らせをするが、クラブ規約も特に設けておらず、「来るものは拒まず」がこのクラブの基本姿勢である。父兄も参加してよく、幼稚園児の参加もある。ただ、参加する子供

の年齢に幅があると同一の企画では無理があり、年少と年長で二つの企画を準備する必要があるところは工夫を要する点である。参加している子供は男女ほぼ同数で、友達と一緒にではなく一人で参加している子供もいる。

年間を通して様々な活動をしているが、主宰者によると活動の成否は企画を含めた準備段階でほぼ決まるという。集合場所に剣玉やお手玉を用意しておき、早く来た子供たちが活動開始前に遊びながら待てるようにするなどの工夫も行っている。

活動時間は毎月第3土曜日の午前中の3時間（9～12時）である。

時期	17年度の活動内容	場所
4月	計画づくり・参加者顔合わせ	公民館
5月	春を探す / 生き物観察・スケッチ	野外・公民館
6月	弓矢作り・弓道体験(的当て)・花笠音頭やダリヤ音頭を踊ってみよう	主宰者宅
7月	林間小屋づくりに挑戦～縄やつるを使って自分らしい環境を作ってみよう～	主宰者宅
8月	里山御来光見学【町との共催】	野外
9月	粘土で自分のコップを作ろう	公民館
10月	土のやきものづくり・弓道体験(的当て)	野外・主宰者宅
11月	ビデオ作品をつくろう	公民館
12月	造花の生け花やブーケをつくろう(クイズ・ゲーム・正月遊び)	公民館
2月	みんなで犬川地区かるたづくり	公民館

### 活動の特徴

活動時間3時間（9～12時）のうち、最初の1時間＝「つくる」、次の1時間＝「きょうそうする」、最後の1時間＝「じゅうじかん」としている。ポイントは、最初の1時間で子供たちが自分の目に見える成果物を作り上げるということである。目に見えるものがあるのとないのでは、子供たちのやる気に大きな差がでる。次の1時間＝「きょうそうする」の中で、自分の作ったものを他の人と比べ競い合うことで、子供たちの遊び心をくすぐる。そして、最後の1時間＝「じゅうじかん」でフリーに子供たちを遊ばせる。

また、活動の一つの方針として、児童や父兄に負担をかけないために子供になるべく物を持ってこさせないようにしている。したがって野外活動でも着の身着のまま参加することができる。

2年間の活動で子供たちが地域の人と接する機会が増え、地域の人もまなぼうクラブを認識するようになってきている。今後、さらに活動を広げ子供たちに様々な体験をさせるには、地域の人々の協力が不可欠である。

活動全体を通じて言えることは、参加を強制せず自由な雰囲気の中で子供たちの自由意志によってやらせているということである。子供たちにとっては参加のハードルが非常に低くなっている。毎回コンスタントに子供たちの参加があり、多くの子供は毎回の活動を楽しみにしているが、自由な雰囲気や仕組み作りもそのポイントの一つである。

活 動 名	沖小歌舞伎	種 別	歌舞伎
活動団体名	小国町立沖庭（おきにわ）小学校		

ここがポイント！

「上級生の活動」へのあこがれを醸成。  
活動への保護者の協力。



基礎データ			
所在市町村名(地域名)	小国町（沖庭地区）		
活 動 人 員	子ども（16）人	大人（ ）人	計（16）人
活 動 年 数	18年		
指 導 者 数	4人		
年 間 活 動 経 費	千円		

### 起源・由来等

<古田歌舞伎> 小国町北方の沖庭地区に古田の集落がある。江戸時代末期、中央の歌舞伎の発達がこの山間地まで及び、大正から昭和初期にかけては「古田芝居」の一座を組織し、座員15、16人が農閑期を利用して村内をはじめ村外まで求めに応じて旅興行するほどになった。しかし、日中戦争以降の全国的な歌舞伎の衰退期にあって、「古田芝居」も昭和33年の公演を最後に途絶えた。その後、昭和61年、地域における復興の機運が高まり「古田歌舞伎」と名を改めて28年ぶりに復興された。

<沖小歌舞伎> 沖庭小学校で行う歌舞伎ということで、通称、「沖小歌舞伎」と言っている。保存会での復興に続き、昭和63年から保存活動に取り組んでいる。古田歌舞伎保存会の指導のもとに行

われる古田歌舞伎の子供版である。

### 活動の内容

沖庭小学校は、全校児童63名(うち、4年生15名、5年生8名、6年生8名)である。発表の場は、毎年10月末の公演である。これは古田歌舞伎保存会との同時公演として行われる。年によっては、国民文化祭(15年度)、地域伝統芸能フェスティバル(17年度)のように大きなイベントへ参加する場合もある。

10月末の公演会は学校の体育館で行われるが、一ヶ月前から早々と舞台が設置され、子供たちの気分を盛り上げる。一つの演目は40～50分で役によっては台詞回しも相当長くなる。演目は「絵本大功記」と「白浪五人男」の二つがある。

### 活動の特徴

沖小歌舞伎の一つの大きな特徴は、5年生が演じることである。6年生は指導役であり、5年生で舞台を踏んだ自信と誇りをもって下級生の指導にあたる。5年生は、春先は総合的な学習の時間で古田歌舞伎の歴史等を勉強し、10月末の公演に向けた練習は9月中旬から総合的な学習の時間や放課後を活用して行われる。台詞暗記から始まり、次に立ち稽古となるが立ち稽古では保存会の指導も仰ぐ。本番が近づくと練習は放課後に毎日2時間程度行われる。

稽古は、役ごとに5年生と6年生がペアになって行われる。児童同士であっても、教える側と教えられる側のけじめがしっかりしており、礼儀は師匠に対するそれと変わらない。当然細かい所作等は保存会から指導を受けるが、学校では6年生が5年生に教えるという自主的な生徒間の活動にも教育上の意味を見出している。

維新軍楽(12頁参照)でも児童間で引継ぎが行われているが、活動主体はあくまでも6年生であり(卒業前に5年生に引継がれる)、活動主体が5年生である(6年生から一年かけて5年生性に引継がれる)点が沖小歌舞伎と異なる。

一方、維新軍楽とも共通する特徴としては、小さいときから上級生の活動を見てくる中で、早く自分も演じたいというあこがれが子供たちの中に醸成されるという点である。特に沖小歌舞伎の場合は、演目が「絵本大功記」と「白浪五人男」の二つであるので、小さい頃から見聞きする中で子供たちは当然話の筋も知っており、5年生になったらどの役をやりたいかというところまでイメージするようになる。ずっと沖小歌舞伎へのあこがれを持ち、そして実際に舞台を踏んだ子供たちから話を聞くと、子供たちには、「沖小歌舞伎は学校の宝」「沖小歌舞伎を引き継ぎたい」という意識が自然と芽生えているという。

また、沖小歌舞伎の活動に欠かせないものに保護者の協力がある。白塗りの化粧や、着付け、舞台作りなどは子供だけでは対応が困難であることから、保護者が協力している。保護者を対象にした講習会が開催され、保存会の会員が指導にあっている点も大きな特徴と言える。

活 動 名	山戸（やまと）能・山五十川（やまいらがわ）歌舞伎	種別	能・歌舞伎
活動団体名	山五十川古典芸能保存会		

ここがポイント！

能は、立ち方ではなくまず囃子方を経験させる。  
修学旅行時に旅行先（首都圏）で披露。



基礎データ			
所在市町村名(地域名)	鶴岡市（旧温海町）		
活 動 人 員	子ども（50）人	大人（50）人	計（100）人
活 動 年 数	43年		
指 導 者 数	4人		
年 間 活 動 経 費	960千円 (財源：伝統文化活性化国民協会助成金、市補助金等)		

起源・由来等

<山戸能> 鶴岡市(旧温海町)の山五十川では鎮守・河内神社祭礼に昔から能と歌舞伎が奉納されてきた。「山戸能」と呼ばれているのは、山五十川がかつて山戸村に属していたことによる。山戸能は黒川能と古くから交流があったといわれている。室町期の能面が三面も残っておりその歴史の古さを物語っている。明治30年頃までは百二十番ほどを伝えていたが、今では9番のみで毎年1曲ずつ演じている。現在奉納上演しているのは、5月3日の例祭、11月23日の秋祭り、大晦日の塞土(さいど)祭で、同社境内の「古典芸能伝承館」と「公民館」でそれぞれ上演されている。また、能に先だって行われる「恋慕舞」という稚児舞は「式三番」の舞とともに、古風で優雅な所作を伴った舞として注目されている。昭和39年に県の無形民俗文化財に指定されている。

<山五十川(やまいらがわ)歌舞伎> 由来については「寢覚実那志草(ねざめみなしぐさ)」という古文書があり、芝居の伝承は18世紀までさかのぼることができる。毎年5月3日の河内神社の例祭で能の後に演じられている。かつては若連中が義務的に出演してきたが、明治以降は消防組、青年団を経て、今は集落で古典芸能保存会を組織してその育成に努めている。主な番組は「仮名手本忠臣蔵」、「菅原伝授手習鑑」、「義経千本桜」など三十数番がある。舞台、衣装、かつら、小道具等すべて台帳を作成、保存修理し伝承されてきている。

同じ集落に能と歌舞伎の二つの無形文化財を一体として守り続けている例は全国的にも珍しい。昭和61年に県の無形民俗文化財に指定されている。

### 活動の内容

山五十川地域の戸数は現在約180である。保存会の規約上は全戸が会員となっており、会員は「能」「歌舞伎」「裏方」のいずれかに属することとなっている。能と歌舞伎は演じ手が別れており、同一人が両方演じるということはない。また、裏方では大道具関連の仕事もあることから大工職の人になることが多いという。ちなみに、この区分けは世襲ではない。

毎年5月1日から4日までの4日間、山五十川地区の祭りがある。初日の前夜祭では能が、3日目の春祭典では能及び歌舞伎が演じられる。

時期	名称	稽古
5月	春祭典	1～4月
8月	夕陽能	7～8月
10月	学校祭(小学校主催)	8～10月
11月	秋祭典	9～10月
1月	塞土祭	12～1月
3月	修学旅行先での披露(中学校主催)	12～2月

山五十川地域の子供たちは山戸小学校(現在全校児童数約60名。学区内には山五十川地域と戸沢地域とが入っている。)、卒業後は温海中学校(現在全校生徒約300名)に通う。小学校4年生になると道行噺子(みちゆきばなし)を演じる。道行噺子というのは能の一種だが立ち役はなく囃子方だけのもので笛・太鼓・大づつみ・小づつみで囃すものである。最初から立ち方を経験するのではなく、まず囃子方を経験し、それを通して子供たちは能に触れていく。

### 活動の特徴

中学2年生で行く修学旅行先で、生徒が道行噺子、太鼓、獅子踊りなどいくつかに別れて披露することを3年前から行っており恒例行事として定着しつつある。道行噺子の練習は、保存会のメンバーが鳴り物の種類ごとに個別指導を行い、地域の公民館で毎週夜1～2時間行われる。今年度は8人の生徒が道行噺子を演じた。



活動名	松山能・狂言	種別	能・狂言
活動団体名	松諷社（少年部） 松山町立松山小学校狂言クラブ		

ここがポイント！

小学校での狂言経験者の受け皿として、保存会に「少年部」設立。  
まず、子供に桧舞台を一度経験させる。



基礎データ（松諷社少年部）			
所在市町村名(地域名)	酒田市（旧松山町）		
活動人員	子ども（6）人	大人（ ）人	計（6）人
活動年数	17年		
指導者数	7人		
年間活動経費	千円		

起源・由来等

松山能は、松山藩主酒井忠恒公の時代（約340年前）、藩の式楽として定められ、三代忠休の時代に隆盛を極めたと伝えられる。藩政時代は観世流とされ、正徳・元禄・宝暦・文政の各時代の謡本が数千冊残されている。しかし、長い間この地で語り継がれるうえいに明治時代には宝生流の指導を受け、更にその後、黒川能の影響もあり、松山流と言われる独特の能を生み出していった。明治維新以後、藩政の解体により松山能も消滅の危機を迎えたが、民間の演能団体である「松諷社」に引き継がれ、昭和55年に県の無形民俗文化財に指定されている。

## 活動の内容

地域の伝統芸能を伝承するという視点よりも、子供たちに表現することの楽しみを教えたいという視点から、地元の有志が二十数年前から学校教育の中に能・狂言を取り入れることを進言してきたが、昭和63年に学校側の理解が得られ「狂言クラブ」ができた。週一回行われる学校のクラブ活動授業の選択肢の一つとして、「狂言」が取り入れられることとなった。狂言は能に比べ、舞・謡・囃子などの大掛かりな準備が不要のため取り掛かりやすく、また話す言葉も日常語に近い狂言のほうが分かりやすい。現在は児童7人が狂言を選択しており、小学校の体育館でのクラブ活動には従来松諷社が指導にあっている。平成3年以降「松山城薪能」において子供狂言として欠かさず公演を続け、定着している。

平成元年、松諷社の後継者育成と、松山小学校狂言クラブでの狂言経験者の受け皿として、松諷社に少年部が創設された。現在は少年部員が6人（高校生1人、中学生5人）であるが、いずれも松山小学校狂言クラブで活動した子供たちである。現在少年部は男子だけで、声変わりや受験もあり活動時間がなかなかとれず難しい面もあるが、大人の松諷社会員と一緒に又は、独自に能及び狂言を稽古している。平成9年に博報賞（財団法人博報児童教育振興会・主催）を受賞したことにより、地域芸能の伝承に積極的に取り組んでいこうとする姿勢が、子供たちの中でますます高まっている。

6月の松山城薪能は、昭和57年の松山文化伝承館が建設されて以来開催されている。8月の例祭は能二番、狂言一番を奉納している。また、平成元年から開催されている大寒能は1月に総光寺での上演である。

時期	内容
6月	松山城薪能（花の能）
8月	神社例祭（月の能）
1月	大寒能（雪の能）

## 活動の特徴

松諷社で指導するにあたっては、狂言クラブの子供たちに桧舞台を一回経験させることを重要視している。子供たちは、檜舞台を一回踏む前と後では全然違うという。公演を経験すると、子供たちの中に自信も芽生え、また自分を表現することの楽しみに気づき、その後の稽古に対するやる気は全然違ってくるといふ。（年に数回発表する機会があるが、各人一回「シテ」を経験できるように配慮しているという。）技術指導から衣装の調達まで、松諷社が全面的に小学校のクラブ活動をバックアップしているのが大きな特徴である。

また、松諷社では年に2～3回、舞の形や扇の使い方等を勉強するために、中央から講師を招いて研修会を行っている。不足しているところは真摯に学ぼうという松諷社の前向きな態度が伺える。（この機会を捉えて、学校でも同じ講師を迎えて6年生の学年行事とした研修会を開催している。）

活 動 名	フェスティバルざっこしめ	種別	地域の自然
活動団体名	三川町公民館		

ここがポイント！

ふるさとの原風景を川遊びで体験し、自然（川）の大切さを理解。



基礎データ			
所在市町村名(地域名)	三川町(青山地区)		
活 動 人 員	子ども(120)人	大人(60)人	計(180)人
活 動 年 数	17年		
指 導 者 数	50人		
年 間 活 動 経 費	313千円(財源:町費、参加費)		

### 起源・由来等

三川町の基幹産業である農業を支え、恵みをもたらしてくれる川であり、町名にもなっている川であるが、河川や水路の整備が進んだことにより、子どもたちが身近に遊べる場ではなくなりました。

そこで、安全に川遊びができる環境を一時的に整備し、子どもたちに川遊びの経験をさせることで、川（水）、そして自然の大切さを学ぶとともに、親子のふれあいを深めることを目的として平成元年にスタートした。

以来、川の増水により予備日でも実施できなかった1年を除いて、毎年1回、計16回開催されて

いる。

### 活動の内容

小学生以下の子どもたちとその親を対象としている。川の水量が比較的少ない時期に、町内を流れる青龍寺川の一部を堰き止め、そこに川魚を放流し、園児・児童が川に入って素手で魚捕りをする。幼児は3メートル四方の水槽に放された川魚をつかみ取りする。

小学校高学年(4～6年生)は、素手での魚とりタイムレースを実施し、成績上位者には記念品を贈呈する。

捕った川魚の一部は、親が調理して現場で食べることもできる。

参加する子どもたちからは、事前に、川の中及び土堤の清掃を行ってもらう。

また、大会の冒頭に、地元農業者から、川と農業のかかわり、川の恵み、川の大切さの話をしてもらう。

### 活動の特徴

町内を流れる川の数も多く、町民は日常的に目にしており、それが「ふるさとの原風景」として、皆の脳裏に焼きついている。その川で遊んだり、清掃をしたり、農業等とのかかわりを学習したりすることで、より川を身近に親しみをもってもらえるよう、また、川を大切に作る心、ふるさと三川を愛する心を醸成できるよう工夫している。

実施に当たっては、町の青少年育成推進員、各町内会、青少年ボランティア団体、社会教育推進員など、町内の多くの関係団体、関係者の参加を得ている。

危険である等の理由から、実際に子どもが川で遊ぶことができない現状にある。より身近な川で日常的な自然体験や学習できる環境が整備できないか、検討している

活動名	飛龍太鼓の伝承	種別	和太鼓
活動団体名	キッズ わだいこ		

ここがポイント！

あそび感覚で、地域に伝わる伝統太鼓を子どもたちに継承。  
多くの発表機会により、子どもたちのやる気を喚起。



基礎データ	
所在市町村名(地域名)	庄内町(旧余目町)
活動人員	子ども(23)人 大人(5)人 計(28)人
活動年数	2年
指導者数	2人
年間活動経費	388千円(財源:会費、町補助金)

### 起源・由来等

15年に開催された「第18回国民文化祭2003」として、余目町で開催されたアンサンブルフェスティバルのオープニングセレモニーとして、地域で10年前から活動を行っている“あまるめ飛龍太鼓”を子どもたちが演奏したことを契機に活動がはじまった。

### 活動の内容

参加する子どもたちは、小学校1年生を対象に年1回募集する。

小学校低学年を対象に、和太鼓の練習を週1回(主に水曜日午後7時~8時)庄内町響ホールで

行っている。

下記のとおり、町内の各種イベントでの発表している。

(17年度：15回)

あまるめ飛龍太鼓創立10周年記念式典、梵天感謝祭、  
キラリあまるめ・道の駅オープニングセレモニー、  
余目第一公民館かがり火まつり、こどもフェスティバル、  
余目・夏よひ祭、余目保育園創立記念、庄内町音楽祭、  
地域伝統芸能フェスティバル・開催地アトラクション、  
余目第三公民館祭、庄内町芸術祭40周年記念公演、  
芸文協議会新春懇談会、鶴岡太鼓フェスティバル、  
余目たんぼぼの会お楽しみ会、京田川改修事業竣工式

### 活動の特徴

小学校低学年が対象なので、遊び感覚で、和太鼓の音に触れ、太鼓を演奏する楽しさを体験させるように心がけている。その中で、太鼓演奏の技術の向上を図っている。

出来るだけ多くの発表の場を確保し、子どもたちの日ごろの練習成果を多くの人に見てもらい、ほめてもらうことによって、子どもたちの意欲を向上させるように努めている。

また、太鼓の良さ・魅力がまだ活動に参加していない地域の子どもたちの興味をもそそり、伝承につながるように活動していきたい。

会員の増加に伴い、練習場所、指導者、楽器(太鼓)保管場所の確保が課題となっている。

活動名	蕨岡(わらびおか)延年	種別	延年の舞
活動団体名	蕨岡延年の舞保存会		

ここがポイント！

女子も活動に参加し、子供不足に対応。

「稚児舞」の継承を最重点課題に位置づけて活動。



基礎データ	
所在市町村名(地域名)	遊佐町(蕨岡地区)
活動人員	子ども(19)人 大人(10)人 計(29)人
活動年数	20年
指導者数	8人
年間活動経費	158千円(財源:部落負担金、町補助金等)

起源・由来等

蕨岡(わらびおか)は鳥海山の登拝口の一つで旧名を上寺といい、登拝の道者宿として修験が活動してきた集落である。蕨岡に伝わる延年の舞は元来この修験者の舞であり、修験衆徒の惣領が大先達になるための通過儀礼として師資相承されてきた。平成5年に県の無形民俗文化財に指定されている。

面・衣装・古道具等から室町期以降に創始されたものといわれている。修験の家の長男は3歳になると、懐児として祭礼に参加する。7歳になると法座に連なり、15歳になるまで童哉礼、童法、檀内入の順で稚児舞を舞う。その後、俱舎、太平楽の若衆の舞、そして大人の舞の振鉾、陸王へとうつる。現在まで伝えられる演目は下の7つであり、お囃子は太鼓一つで、唱え言もその人が兼ねている。この中で上演時間も長く複雑な所作を要求され、他と比べて難易度ははるかに高いのが稚児舞である「檀内入」である。

名称	種類	舞手人数	対象（目安）
童哉礼(どうやれ)	稚児舞	4人	小学校低学年
童法(どうほう)	稚児舞	4人	小学校中高学年
檀内入(たないり)	稚児舞	4人	小学校高学年～中学校
俱舎(ぐしゃ)	若衆の舞	4人	
太平楽(たいへいらく)	若衆の舞	4人	
振鉦(ふりほこ)	大人の舞	1人	
陸王(りょうおう)	大人の舞	1人	

### 活動の内容

毎年5月の例大祭は、鎌倉時代から伝承されてきた祭りで、「大御幣祭(だいおんべいまつり)」の名で呼ばれている。この例大祭が一番重要な行事である。4月に入ると、地区の公民館(大鳳館)で夜、稽古が行われる。稽古は毎週1回以上だが、檀内入のように難しい演目を行うときは、一層の稽古が必要になる。

時期	名称	場所
4月	鳥海講社祭(「陸王」奉納)	大物忌神社拝殿
5月	鳥海山大物忌社例大祭(全演目奉納)	大物忌神社拝殿
10月	遊佐町民俗芸能公演会	遊佐町中央公民館

### 活動の特徴

かつては、舞は修験者の各坊の跡継ぎが、それぞれの年齢に応じて経験しなければならない義務的な通過儀礼であった。祭の運営方法は、戦前までは修験者の跡取りであった旧33坊(現在は17坊に減っている)主体で行われていたが、戦後、地区全体で運営されるよう大きく変わった。同時に、延年の舞も坊家の長男だけに限られていたのが、氏子の男子ならだれでも参加できるようになった。蕨岡延年には、戦時中の召集等によって舞手が不足し途絶えたときも、稚児舞だけは一度も途絶えることなく現在まで継承されてきたという伝統がある。保存会では、この伝統を途絶えさせないために、稚児舞の継承に特に重きをおいて継承活動を行っている。

「蕨岡延年の舞保存会」には蕨岡集落の全62戸が加入している。現在、稚児舞を演じる子供の数は中学生7名を加えた合計19名で、女子10名が含まれる。修験者に起源を持つこの舞は、本来男子のみを舞手とした。しかし少子化のため地域内の男子だけに舞手を限定すれば不足することが明らかとなり、蕨岡地域以外から男子を借りてくるか、地域内の女子を含めるかを検討した結果、後者に決まった。稚児舞を伝承しなければならないという共通認識の中で、女子を参加させることについては、地域で異論はなかったという。3年前から女子を含めて活動しているが、実際やらせてみると飲み込み早く舞も様になっているという。



活 動 名	だがしや楽校	種別	
活動団体名			

ここがポイント！

かつて子どもの社会力を育む場であった駄菓子屋を地域に再現  
楽しみながら「しつけ・創意・つきあい」を学ぶ。



基礎データ			
所在市町村名(地域名)			
活 動 人 員	子ども( )人	大人( )人	計( )人
活 動 年 数	年		
指 導 者 数	人		
年 間 活 動 経 費	千円		

### 起源・由来等

かつての放課後の駄菓子屋は学校では学べない社会力を育む場であったという、駄菓子屋の教育的意義を現代に活かすため、平成9年、山形市南一番町の駄菓子屋「はじめや」の前に「だがしや楽校」の屋台を設置したのが始まりとなり、以後、県内、全国へ広がっていく。

けん玉やベーゴマといった遊びを教えたり、フリーマーケット的要素も取り入れ、子どもに対してお金の使い方、人との付き合い方を教えるなど、先生役、生徒役とも楽しみながら、学校とは違う学びの場を提供していこうとする取り組み。

## 活動の内容

だがしや楽校は、お祭り屋台の形式で、誰もが手軽に「趣味・特技・遊び・学び・作品」などを「みせ(店・見せ)」る集いである。

「見る」から「見せる・する」集いへの転換。人に混ぜる。物売りあり、ボランティアあり遊びの多様の共生。だんどりは簡単。

誰でも・どこでも・いつでも開けます。

場所さがし(近くて気軽に集まりやすい場所・トイレや駐車場もあればなお可)

屋台を出してくれる人・団体を募る(自主参加)

張り紙かチラシで日時・内容を知らせる(無理しない、手間かけない)

参加者の責任で行う(中学生以下は保護者の責任で)

ビールケースとベニヤ板で「みせ」ひらき(あるものを利用する)

「みせ」の中に「駄菓子屋台」を入れる(飲食の自由、玩具)

定期市が望ましい(口コミがきく)

だがしや楽校は一人から始めることも可能ですが、地域活動(公民館活動や商店街イベント、町内会、子ども会等)として取り組むことにより、次のような地域の交流の場としての活動も可能。

子どもにとって、人との付き合いを育む場

若者にとって、社会的な参画力をつける場

お父さん、お母さんにとって、子育ての付き合いの場

お年寄りにとって、技や知恵を伝える場・子どもから元気をもらう場

## 活動の特徴

誰でも・どこでも・いつでも開ける。

子どもたちが楽しみながら、学び・遊ぶことができる。

大人たちも、子どもたちの学び・遊びをしていくことのお手伝いをしながら、自らも童心に返って一緒に遊べる。

経費はやり方次第。原材料程度の金額があれば可能。(ミニ地域通貨も人気)

子どもは工作が大好き。(所要時間は飽きないように短く)

## 活動の効果

選ぶことによって、活動に楽しく主体的にかかわることができる。

ゆるやかに競い合うことによって、企画力や共同性が高まる。

学びの内容が広がり、学びの成果を豊かに表現できる。

- ・ エコマネーや地域通貨を使った経済学習
- ・ ボランティア活動を企画し、体験する総合的な学習の時間
- ・ 保護者が開く職業屋台、身近な例から将来の進路について考えるキャリア学習

地域文化の伝承活動実態調査結果（平成 17 年度実施）一覧

今後とも、適宜実態調査を実施し、修正を加えていくこととしています。

NO	地域名	市町村	活動地域名	伝承テーマ	活動主体 (団体名)	活動の内容	ポイント・課題
1	村山	山形市	大曽根	地域に伝わる伝統文化(だんご刺し)	大曽根公民館	小正月の行事「だんご刺し」の伝承活動を行い、子供たちの健全育成と世代間交流を図った。	ポイント 郷土の歴史・文化としての伝承行事に親しむことができるかどうか、楽しみながら学ぶことができるかどうか、世代間交流が図れるかどうかを重視。 課題 活動を維持・発展させるために、また自主的な活動となるよう活動団体をサポートしていく。
2			金井地区	地域に伝わる伝統文化	山形市地域子ども教室 いきいきトライアル教室	地域伝統芸能教室では、和太鼓、三味線を体験し夏祭りや文化祭等で発表した。懐かしの昔遊び教室では、雪灯籠つくりや雪上運動会(雪上カルタ取など)を行った。いずれも地域に根ざした体験と共に、異世代間交流を促した。	ポイント 郷土の歴史、文化としての伝承行事に親しむことができるかどうか、楽しみながら学ぶことができるかどうか、世代間交流が図れるかどうかを重視。 課題 活動を継続・発展させるために、また自主的な活動となるよう活動団体をサポートしていく。
3			西部公民館(山形市籠田)	地域に伝わる食文化	西部公民館	手打ちそば体験を通し、親子のふれあいを図った。	ポイント 郷土の歴史、文化としての伝承行事に親しむことができるかどうか、楽しみながら学ぶことができるかどうか、世代間交流が図れるかどうかを重視。 課題 活動を継続・発展させるために、また自主的な活動となるよう活動団体をサポートしていく。
4			木の実町・桜町・本町	豊烈神社の打毬(だきゅう)	山形市豊烈打毬会	山形市立第一小学校おもだかサッカー部と8月下旬に打ち合わせを行い、9月上旬から10月上旬にかけて練習を行った。その後、10月6日の豊烈神社例大祭において徒打球を披露した。	ポイント 神事に係わることであり、神社や周辺地区民の後援があり、基盤としては安定していると判断される。マスコミ等でも取り上げられる機会が多く認知度も高い。
5		蔵王半郷	松尾バヤシ	蔵王半郷松尾囃子保存会	毎月第二日曜日に練習実施。また幼児および小学生を対象とした定期練習。中学生を中心に笛及び三味線の練習。6月に勧誘強化月間として小学生を中心に入会勧誘。	ポイント 実際に囃子を行う児童も保存会の会員となっており、また世帯単位で会員となるなど家族単位での伝承が行われている。他のお囃子の団体とも交流を図っている。	
6		寒河江市	醍醐	日和田弥重郎花笠田植踊り	日和田弥重郎花笠田植踊り継承活動親の会	山形県指定無形民俗文化財「日和田弥重郎花笠田植踊り」保存会の指導により、地域文化の伝承、普及と後継者の育成を目的に平成3年に醍醐地区の親と子でクラブを発足。定期的な練習のほか、弥重郎の面作りなどの活発な活動を続けている。	ポイント 年1回子供たちを研修旅行につれていったり、面作りを行うなどがポイントである。 課題 子供たちを継続して勧誘していくことが課題。

NO	地域名	市町村	活動地域名	伝承テーマ	活動主体(団体名)	活動の内容	ポイント・課題	
7	村山	上山市	西郷地区	地域に伝わる和紙づくり	西郷地区ふるさとづくり実行委員会	西郷地区内の小学6年生が、自分の住む地区の伝統ある高松和紙で自分たちの卒業証書を作るもので、作業を4段階にわけて11月末から1月下旬にかけて取り組むもの。	ポイント ・地域全体の理解と協力 ・地区民の誰もが納得できる伝承活動であること 課題 ・後継者問題	
8			高松地区	高松観音御年越し餅搗行事	無形文化財高松観音御年越し餅搗行事保存会	観音様の御縁日(12月17日)に近い日曜日に観音様の御年越し餅搗を行い、地区内の五穀豊穰・商売繁盛・心身堅固を祈願する行事で、この行事続けていくためには後継者の育成が必要。餅つきの当日は小中学校の生徒児童を招待し、一緒になって餅つきを実施。	ポイント この行事を末永く継続していくためには、地域住民の協力が必要 課題 地域住民の高齢化が進み、つき手、返し手も年々高齢化していく中で、若者が少なくなってきたり、後継者の育成が悩みの種となっている。	
9			上山市内	上山藩鼓笛楽	上山鼓笛楽保存会	・月岡神社例大祭前夜祭奉納奏楽 ・上山温泉秋祭り、三神神輿渡御市内行進奏楽 ・鼓笛楽奏法研修(月岡会館)～藩楽会 ・資料、楽器等の整備 ・上山小学校鼓笛楽指導講習	ポイント ・後継者の育成とその活動への支援体制の確立 ・指導者の意識高揚のため行政側の認定書の発行 課題 ・指導者の高齢化老齢化による意欲の減退への対応 ・有形文化財に比べて無形文化財の保存については、保存会任せで関心が薄い等	
10			本庁地区(旧市内)	ご遷座警護武者押し四方祓いの儀	月岡神社甲冑隊保存会	4月24日例大祭前夜祭、町内行列、秋祭り行列それぞれ祭日前日4～5日間練習あり。昨年度地域文化活動助成事業で顕彰を受けました。	課題 関心を持つ子が少ない	
11			上山市内	地域の伝統芸能、和太鼓、お囃子、踊り	上山太鼓囃子鼓流	和太鼓は、県外等のプロの講演会に参加し、子供たちに合う曲も創作して教えている。花笠太鼓は、昔からのリズムのほか、新たなバージョンも増やしている。花笠踊りも子どもたちは楽しくやっている。17年度は「かかし音頭」の踊りを市内の日舞の先生に教えて頂いて祭りで発表した。18年にはさらにアレンジやら別の曲にも挑戦していく。	ポイント ・現在市内の2つの小学校に通う子供たちがメンバーとなっている。そのため子供たちも親も学区外交流で情報交換にもなっている。 ・地域の祭り等に子供たちを参加させることにより、子供の親、周囲の人が祭りを見に来て活性化につながっている。	
12			村山市	北河島	杉島諏訪太鼓	杉島諏訪太鼓保存会	毎週火曜・木曜に練習を行い、地元杉島・西郷地域の祭り、山形花笠祭、徳内まつり等各種イベントに参加。	ポイント 指導を受けた子供が成長し、打ち手となり、次の指導者となるような好循環を生むこと。 課題 中学になっても続けてほしいが、学校の部活動と両立が困難なため継続できない子どもが多い。
13				富本地区	大黒舞	富本小学校(5年生児童)	7月から10月の毎週日曜日の夜に2週間ずつ練習。校内文化祭、特養老人ホーム、地区敬老会、市伝統芸能大会などで発表。	ポイント 継続していこうという気運の高まりと、その継続。保護者の協力支援。 課題

NO	地域名	市町村	活動地域名	伝承テーマ	活動主体(団体名)	活動の内容	ポイント・課題
							衣装の布が高価で手に入りにくい。個人もちなので保護者の負担が大。
14	村山市	村山市	村山市内	いけばな	いけばな小原流村山教室	平成17年度は月2回、平成17年6月～平成18年3月まで20回にわたりいけばなの指導を行っている。	ポイント 発表の場を行政がつくこと。
15			県内	民踊	山形県民踊協会村山支部	年間通して月2回のお稽古。踊りのほか、なわとび、お手玉、羽根突き、こままわし等の遊びや、ゆかた着付け、帯結び、ゆかたのたたみ方等を指導。	ポイント ・子供たちが怪我なく楽しく学べる会場。 ・練習の成果を地元で発表できるとよい。 課題 子供たちの家族の理解と協力をお願いしたい。(送迎など)
16	村山	天童市	天童南部小学区	維新軍楽	天童市天童南部小学校	毎年1～2月に6年生が5年生に教え、維新軍楽を引き継ぐ。 4月:桜祭り出演。6年生全体で練習を重ね舞鶴山でリハーサルも行う。 5月:学校創立記念式で全校及び来賓に披露。 5/3:建勲神社例大祭で天童市内を維新軍楽を演奏しながらねり歩く。 10月:学校行事南部小祭りで保護者に披露。	ポイント 代々南部小の6年が卒業前に5年生に教え、全員が維新軍楽を引き継ぐ。 課題 毎年経費を捻出するのが大変。指導者の育成。
17		長瀬地区	長瀬七階節	長瀬七階節保存会	定期的に練習を行い、練習の成果を地区の文化祭や敬老会、学校行事等で発表している。		
18			長瀬獅子踊り	獅子踊りクラブ(少年教室)	7～8月に獅子踊り保存会踊り手会の指導により練習(夜)を約20回実施。練習の成果を「LookFor伝承文化」や学校行事等で発表している。その他依頼があつての出演も数多くある。		
19		東根市	神町地区	年中行事	神町地区地域子供教室事業実行委員会	老人クラブの方から農作業行事等の由来や昔話を聞き、実際に実技や試食をして昔の行事を体験する。 (例) 5月:端午の節句と菖蒲湯、8月:豆あげと芋子あげ、1月:団子さしと雪中田植え 等	
20			東根市内外	田植え踊り及び雪田植え(年中行事)の保存伝承	小田島田植踊保存会	・小田島小学校秋季大運動会での子供たちの発表 ・秋季大運動会へ向けての練習指導 ・小田島地区文化祭での発表 ・小田島地区雪中フェスティバルにおける雪田植と初踊り ・その他イベント等における招請出演 ・発祥地八幡神社例祭日奉納及び辻踊り	ポイント 唯一の民族文化の認識高揚と地区民の支援。マスコミの活用。遠い将来の後継者育成。 課題 将来地区青年団との関連で後継者を育成に来たが、青年団崩壊後、後継もない状況が近年若干入会に来てはいるが後継者の確保が課題。

NO	地域名	市町村	活動地域名	伝承テーマ	活動主体(団体名)	活動の内容	ポイント・課題
21		尾花沢市	寺内地区	野尻太鼓、花笠踊り(寺内流)、南中ソーラン踊り	寺内野尻太鼓	毎年4月～11月の期間、毎週日曜日に練習を行い、伝承活動に励んでいる。子供は花笠踊りと太鼓、大人は太鼓、さらに中学生は月曜日の夜、南中ソーラン踊りを練習している。	ポイント 年齢層に応じた個別の指導ができるように時間帯や内容を工夫している。全員が一緒にステージに立てよう工夫し、終了後は懇親会等を行い、相互交流ができるようにしている。 課題 習熟度が異なるので、参加者が横一線になるのが難しい。
22		山辺町	大蔵	棚田	棚田の里音楽会実行委員会	1999年農林水産省より「日本の棚田百選」の認定を受けたのを契機として、地域の貴重な資源、財産を後世に伝える一環として、毎年9月中央より尺八や琴の奏者招へいし地元の小中学生も参加して「棚田の里音楽会」を地域一体となって開催している。	ポイント ・地域民の創意によって、年々趣向を凝らしている ・小中学生と学校と一緒に企画している。 ・ふるさとの貴重な財産を後世に伝えようという小さいときから郷土愛を植え付けている。 課題 ・事業を継続するためには財政的な支援が必要である
23	村山	山辺町	大蔵	面白人形芝居	面白人形芝居(大蔵座)	当町北山の面白地区で古来から伝承されていたが、過疎化高齢化等により継承が難しい状況になってきた。平成15年度に面白人形芝居を復活させようと、地区の小中学校児童生徒と地区民が一体となって復活させ、郷土の文化を継承している。主な活動は、中学卒業の高校生や指導者を招いての研修会の開催。寝食を通しての研修のための合宿の実施。	ポイント 拠点施設(学校・公民館)を核としながら、地域の伝承芸能として、地域、学校、児童生徒が一体となって事業を推進している。また、発表の機会を捕らえながらも普及に力を注いでいる。 課題 維持運営するためにはかなりの経費が伴っており、財政的な支援が必要不可欠である。
24		山辺町	山辺町内全域	ふるさとの歌	やまのべ舞祭 AGASUKE-DANCE倶楽部	山辺町を代表する歌をヒップホップ調に編曲し、振付を施した創作ダンスで大人と子供と一緒に踊るダンス「舞祭」のレッスン会を開催し、幼児・小・中学生を中心に伝承活動を行っている。年2回程度の発表会を行い、幅広い町民の方々への普及活動を実施している。また、伝承方法や活動内容の研修を行うため、他地区の舞祭との交流も行っている。	ポイント 実行委員会の練習だけでなく、小学校単位で学校授業などで取り組んでもらい、地域や学校をあげて伝承していくことが重要。 課題 発表会や他地域で学ぶ伝承研修会などには、相当な負担がかかり参加者からの参加費だけでは到底事業実施は困難である。
25		中山町	中山町内	玄蕃太鼓	中山町玄蕃太鼓振興会	・定期練習会(週一回) ・中山町成人式記念行事での演奏披露 ・中山町元祖芋煮会、あゆ祭りでの演奏披露	ポイント 演奏は皆の息が合わないとバラバラになるため子供たちの協調性を育てるのに最適。開始終了時間を厳守。楽しんでやる。 課題 後継者不足。高齢化。会員の子供は中学になると部活が忙しく練習に参加できなくなる。また会員のほとんどが女子であること。太鼓などの道具修繕費が高額。

NO	地域名	市町村	活動地域名	伝承テーマ	活動主体(団体名)	活動の内容	ポイント・課題
26	村山地域	中山町	主に中山町内	香道	お香を楽しむ会	平成15年度開催の国民文化祭「お香の文化フェスティバル」のボランティアが中心となり、香道に親しむとともに、町に伝わるお香の文化の普及を目的として設立した組織で、小中学生を対象にしたこともお香教室(月1回)の開催、小中学校や社会福祉施設の文化祭、町芸文祭への参加、町民が無料で参加できるお香の体験の集いなどを開催などで幅広く「お香の文化」の普及に努めている。	ポイント 子どもが一生懸命で大会員の奮起を促している。 課題 香道は一般的に知名度が低い。敷居が高いイメージに捉われており、その方たちから参加していただき、盛り上げていくことが課題。
27		河北町	西里両所地区	両所田植踊り	両所田植踊り保存会(両所地区連合会)	毎月第二日曜日と第四木曜日の午後7時から8時まで練習を行い、発表会が近くなると毎週1回の練習を行う。 5月の両所神社祭典と、11月の西里地区文化祭等で子供の両所田植踊りが披露される。 以前に教えた子供たちは現在社会人となり、今度は保存会の一員として伝承活動に頑張っている。	ポイント 踊り手は毎年変わるが上級生の厳しい練習と立派な出来上がりを目にして、下級生も今度は自分が踊りたいと思ってくれるような伝承活動にしていこう。 課題 外部出演の依頼を受け、追加練習が必要となるときに、スポ少、塾などで子供は忙しく練習日程がとりにくい。
28		谷地	豆奴	谷地中部小学校豆奴	谷地八幡宮の大祭り「谷地どんが祭り」で、約1kmにも及ぶ神輿行列の露払いを務めるのが勇壮で力強い奴行列である。この大人の奴の子ども版が「豆奴」であり、祭りの中の出番に向けて春から練習を重ねる。	課題 指導者が一名しかいないのもう2~3人の指導者確保が急務	
29		西川町	石田町内会	石田田植踊り、大黒舞	石田田植踊り保存会	地域の伝統芸能の保存継承に尽力し、地域の祭り等において田植踊りを披露するほか、地域住民の祝いの席でも華を添えている。	課題 伝承していくため、小学生の指導を行っていくための会員の確保が必要
30		岩根沢	岩根沢太々神楽	岩根沢太々神楽保存会	舞曲の指導者は9人いるが、舞の場合は5人ですべての演目を演じられるものではなく、1人で多くて3演目程度である。楽人はそれぞれ専門に分かれている。練習は12月と例祭直前1週間程度行われる。	ポイント 地域の子どもたちにある程度義務的に参加、経験してもらっている。楽しさを第一に考えている。 課題 小規模地区であり新しい会員の入会が厳しい状況にある。	
31		朝日町	朝日町内	地域の自然、食文化、遊び、工芸	朝日ナチュラリストクラブ	自然観察、登山、自然遊び、炭焼き見学、そば打ち、竹細工づくり等	ポイント あまりムリな活動はしない。まずは大人が楽しむ 課題 指導者の後継者づくり
32		朝日町	朝日町内	地域の自然、文化、歴史、生活、産業など	NPO朝日町エコミュージアム協会	地域の良さの再認識につながるような伝承のワークショップを行うとともに、カルタにして楽しみながら伝えていくことも行っている。	ポイント 伝承スタッフの充実 課題 伝承者の高齢化、財源不足

NO	地域名	市町村	活動地域名	伝承テーマ	活動主体(団体名)	活動の内容	ポイント・課題
33	村山	大江町	大江町内	伝説や昔話の普及	おはなし会 いとぐるま	・大江町に伝わる民話「金のたまご」の紙芝居づくり ・月1回のおはなし会開催(紙芝居・エブロンシアター・読み聞かせなど) ・文化祭及び伝統食のつどいででの昔がたり ・保育園、小学校への移動おはなし会 ・3歳児へのブックスタート(読み聞かせ)など子育て支援事業への協力	ポイント 地域に根ざした息の長い細やかな活動を続けていくこと 読書の楽しさ、語りの面白さを伝えていくこと 課題 会のメンバーの高齢化
34		大石田町	大浦地区	豊作祈願と太鼓伝承	大浦ふるさと会 最上川太鼓	毎週1回のペースで練習・指導をしている。 春祭りやお盆行事、地区文化祭等で成果を発表している。	ポイント 太鼓の伝承と子供たちの連携強化・健全育成。 課題 少子化により子供の数が年々減少しており、存続の危機にある。
35	最上	新庄市	新庄市内全体	地域に伝わる民話伝承活動	新庄民話の会	市内各小学校の総合学習として民話の伝承活動が取り入れられ、各校への講師として会員を派遣し、長年受け継がれてきた民話の伝承活動を継続している。	ポイント・課題 実際に活動を行っている会員だけでなく、地域や学校をはじめとする環境も一体となって、地域に昔から伝わる文化を継承しようという意識を高揚させることによって、継続的な事業展開が可能になるとおもいます。
36		金山町	有屋地域(有屋小学校区)	有屋少年番楽	稲沢番楽保存会 柳原番楽保存会	有屋小学校では、学校教育の一環として番楽を取り入れており、「稲沢番楽保存会」、「柳原番楽保存会」の二つの番楽保存会の指導を受けながら、その保存、伝承の取り組みを行っている。また、有屋少年番楽においては、総合的な学習の時間のほか、放課後やさらには夜間に練習を行い、年1回発表会を行っている。	ポイント 学校・地域の協力が重要である。 課題 指導者が高齢化している。
37			明安地域(明安小学校区)	明安子供歌舞伎	安沢歌舞伎保存会	明安小学校では、学校教育の一環として歌舞伎を取り入れており、安沢歌舞伎保存会の指導を受けながらその保存・伝承の取り組みを行っている。また総合的な学習の時間のほか、放課後やさらには夜間に練習を行い、年1回発表会を行っている。	ポイント 学校・地域の協力が重要である。 課題 指導者が高齢化している。
38			谷口銀山保存	谷口銀山保存会	金山小学校をはじめ、町内の小学校や中学校、高校の児童・生徒を対象として、谷口銀山跡の案内などを実施し、次世代への継承を目的とした活動を行っている。また、点在している史跡の安全確認、段階通路の手すりを設置するなどの環境整備も積極的に行っている。	ポイント 学校・地域の協力が重要である。 課題 指導者が高齢化している。	



NO	地域名	市町村	活動地域名	伝承テーマ	活動主体(団体名)	活動の内容	ポイント・課題
39	最上町	最上町	瀬見	義経・弁慶太鼓	瀬見伝統芸能保存会太鼓部会	瀬見祭り、瀬見小学校文化祭をはじめ各種イベントに参加	ポイント 義経・弁慶太鼓の新たな創作太鼓を模索中 課題 後継者となるこどもたちや指導者の育成
40			大堀	大堀神楽	大堀神楽保存会	正月三日に行われる年始めの行事「門回り」のほか、最上町総合芸術文化祭等に参加	ポイント 現在、音楽はテープを再生して踊っているが、鳴り物(笛、太鼓等)を導入し、演出のバージョンを増やすなど、舞台の状況等に臨機応変に対応できるようにしたい。 課題 後継者育成・地域全体での協力とバックアップ・地域内での行事の保存と継承
41			東法田	東法田田植え舞保存会	東法田田植え舞保存会	小学児童(4～6年生)を中心に伝承活動を行い、小学校の運動会、町総合芸術文化祭、福祉施設や町外の伝統芸能のイベント等で披露している。	課題 一般の男性会員が少ない。
42	最上	舟形町	堀内地域	堀内田植踊り	堀内田植踊り保存会	踊りの原型を崩さず、正確な踊りの伝承と保存のために練習と公演を実施。 (練習:年20回程度) 公演は、地元敬老会、町最大のイベント「若鮎まつり」、町芸能フェスティバル、地元雪祭り、その他町祝賀会で行っている。	
43			長沢、富長地区	長沢三吉太鼓、富長若鮎太鼓	猿羽根山太鼓保存会	山形県太鼓連盟の講習会、教室、発表会、フェスティバルに参加し、町保存会の発展をうながしている。各地区では太鼓技術の向上を図るため講師を招いて指導、講習会を年5回実施。町内のイベントに積極的に参加するなどして伝承と保存に取り組んでいる。	
44			野・幅地区	幅神楽	幅神楽保存会	野・幅地区の4～6年生中心。練習は夏休み前後から11月頃まで実施。町主催のイベントへの参加。小学校文化祭等での発表。その他行事等への出演依頼により参加。	ポイント 地域や学校と連携を取りながら、伝承活動を行う等。 課題 小学生のみが踊り手として活動しているが、将来は児童数の減少や伝承者の高齢化により伝承活動が難しくなる。踊りの経験のある中学生以上の人たちの伝承活動への関りも含め検討必要。
45	真室川町	大沢地区	童唄	安楽城の童唄保存会	安楽城小学校2年生以上の女子で「安楽城の童唄合唱団」を結成し地域に伝わる童唄を歌い継いでいる。安楽城地区伝承祭やわらしこ祭り、ふるさと子ども伝承祭に出演し、成果を発表している。	ポイント 低学年のうちから高学年が歌う童歌に慣れ親しんでおり、無意識のうちに保存伝承のための啓発ができています。 課題 児童の減少により、合唱団の維持が年々困難になりつつある。衣	

NO	地域名	市町村	活動地域名	伝承テーマ	活動主体(団体名)	活動の内容	ポイント・課題
							装に用いるわらぐつやもんぺをつくる高齢者が減少しているため、用具の確保が困難になっている等。
46			及位地区	童唄	及位の童唄保存会	及位小学校児童と保護者で「及位童唄保存会」を結成し地域に伝わる童唄を歌い継いでいる。ふるさと子供伝承祭り出演や、及位小学校文化祭に出演し、成果を発表している。	ポイント 低学年のうちから高学年が歌う童歌に慣れ親しんでおり、無意識のうちに保存伝承のための啓発ができています。 課題 児童の減少により、合唱団の維持が年々困難になりつつある。衣装に用いるわらぐつやもんぺをつくる高齢者が減少しているため、用具の確保が困難になっている。
47			真室川町全域	昔話	真室川民話の会	「真室川町民話の会」を組織し、例月の発表会で研修しながら民話の保存継承と子供たちへの継承活動を行っている。安楽城小学校と平枝小学校の民話クラブ指導を行い、子ども伝承祭で成果を発表している。	ポイント 月例の昔話を語る機会を設け、交流と練習を実践している。
48	最上	真室川町	真室川町全域	真室川町に伝わる伝承文化(番楽、童歌、昔話、囃子)	ふるさと子ども伝承祭実行委員会	真室川町には多くの伝承文化が残されており、子どもたちへの伝承活動も多くの団体で行っていることから、伝承活動の成果を発表する場を設けるため、実行委員会を組織し平成16年に「第1回ふるさと子ども伝承祭」を開催し継続している。	ポイント 出演各団地が事前準備、当日の進行、裏方等主体性をもって実行している。 課題 出演する子供たちの所属する小・中学校及びスポーツ少年団等が複数のため日程調整を行う必要がある
49			川ノ内地区	川ノ内囃子	川ノ内囃子保存会	川ノ内囃子は小学生から大人まで幅広い年齢で構成され、保存継承活動を行っている。真室川梅まつり、川ノ内祭、ふるさと子ども伝承祭に出演し、成果を発表している。	ポイント 地域の小中学校を巻き込んだ活動を行っており、無意識のうちに保存伝承の啓発ができています。 課題 用具の確保。
50			釜淵地区	釜淵囃子	釜淵囃子保存会	保存継承のため釜淵小学校と連携し、釜淵小子ども囃子を指導している。釜淵祭、ふるさと子ども伝承祭に出演し、成果を発表している。	ポイント 地域の小中学校を巻き込んだ活動を行っており、無意識のうちに保存伝承の啓発ができています。 課題 用具の確保。
51			釜淵一集落	釜淵番楽	釜淵番楽保存会	集落に伝わる番楽の継承だけでなく、新しい演目に挑戦しながら、多くの舞台で成果を発表している。 ・番楽フェスティバル、子ども伝承祭出演 ・地区のまつりで集落内の家々で獅子舞を舞う ・釜淵行灯番楽の開催(新演目披露)	ポイント 集落全体を巻き込んだイベントを企画し、伝承文化である「番楽」理解を深める。 課題 囃子を担当する人材の育成を図る必要がある。

NO	地域名	市町村	活動地域名	伝承テーマ	活動主体(団体名)	活動の内容	ポイント・課題
52		真室川町	八敷代集落	八敷代番楽	八敷代番楽保存会	集落に伝わる番楽の継承だけでなく、新しい演目に挑戦しながら、多くの舞台で成果を発表している。 また、大滝小学校の児童へ伝承活動を行い、後継者の育成に努めている。 ・番楽フェスティバル、子ども伝承祭出演 ・地区のまつりで集落内の家々で獅子舞を舞う ・幕開き番楽(新演目披露)	ポイント 集落全体を巻き込んだイベントを企画し、伝承文化である「番楽」を通じた地域づくりを行っている。また20歳代の継承者も育ち、若返りを図っている。 課題 子供たちの発表の場の確保。
53			平枝集落	平枝番楽	平枝番楽保存会	集落に伝わる番楽の継承だけでなく、新しい演目に挑戦しながら、多くの舞台で成果を発表している。 また、平枝小学校の児童へ伝承活動を行い、後継者の育成に努めている。 ・番楽フェスティバル、子ども伝承祭出演 ・地区のまつりで集落内の家々で獅子舞を舞う	ポイント 集落全体を巻き込んだイベントを企画し、伝承文化である「番楽」を通じた地域づくりを行っている。また20歳代の継承者も育ち、若返りを図っている。 課題 子供たちの発表の場の確保。
54	最上	大蔵村	清水地区	清水八幡太鼓	大蔵太鼓保存会	・大蔵、赤松、南山小学校児童及び大倉中学校生徒への打ち手定期練習(毎週水曜日4～12月) ・大人と子供打ち手の交流会(12月) ・定期発表会(7月) ・清水八幡神社例祭の太鼓山車への出演(8月) ・大蔵小学校3年生総合学習での太鼓指導	
55			合海	合海田植え踊り	合海田植え踊り保存会	大蔵小学校の授業の一環として行われる田植え踊りと大黒舞の指導。	
56			村内全域	大蔵村の自然と歴史	大蔵村青少年育成村民会議	小学校4～6年生を対象に、夏休みに2泊3日の日程で永松鉾山周辺においてキャンプを行い、村の達人から自然体験を学ぶ。(葉山登山、動植物調査、ベースキャンプ設営、バーベキュー、花火、鉾山探検、イワナ釣り、川下り、ダム見学、キャンプファイヤー、木工)	ポイント 楽しいプログラムだけでなく、忍耐力を伴うようなものを組み込んでいる。 課題 少子化による参加者の減少。8年継続しているためプログラムがマンネリ化している。
57		鮭川村	京塚地区	鮭川歌舞伎	鮭川歌舞伎保存会	公演の前に、村中央公民館等で(夜間約2時間程度)練習。年間延べ35日程度。保存会の会員が指導役となり、鮭川歌舞伎の成り立ちや芸風などの基本的な事項も含めて子どもたちに教授し、基礎の稽古から上演に至るまでを完全に実施していく。 上演については、鮭川歌舞伎定期公演の中で演目を設け、子どもたちに演じさせている。このほか、	課題 広く多くの児童に募集案内を行い、参加者をいかにして確保していくかが課題である。また、補助金に頼らずに地域が自主的に継承活動を維持していく仕組みづくりを急ぐ必要がある。

NO	地域名	市町村	活動地域名	伝承テーマ	活動主体(団体名)	活動の内容	ポイント・課題
						小学校の文化祭や各地の民俗芸能大会に出演している。	
58	最上	戸沢村	蔵岡	地域の伝統文化 (門松づくり、凧づくり、昔の農作業)	蔵岡ふるさと塾	門松づくり、凧づくり、昔の農作業(田植えから稲刈りそして収穫祭)を地域の子どもたちに伝承している。 なお、農作業体験では、昔から使われていた農具を使用し、できるだけ昔ながらの農作業を忠実に再現して行うよう配慮している。	ポイント 地域の方々と子供たちがうまく関わられるようにする。・マンネリ化した取り組みにならないようにする。 課題 活動の主体となる子どもたちとの日程調整。 親世代の主體的・意欲的参加を促す。
59			古口	地域の自然と農作業	北の妙創郷大学	「メダカの学校」、「山の学校」、「土の学校」、「田んぼの学校」を開設し、元気なお年寄りの豊富な経験と知識を基に、子どもたちと一緒に、昔ながらの農作業体験やメダカ・螢などの保護活動、炭焼き体験、小動物とのふれあいの場の整備などを行っている。	ポイント 地域の子どもたちが多く参加することが大切である。 課題 中学生の参加を図る。 地域を担う中間層(壮年・青年)の参加の取り組み。
60			古口	地域の伝統文化 (わら細工づくり、竹細工づくり、炭焼体験、門松づくり)	乙夜塾	古口小学校の地域の先生として活動が始まり、現在は古口公民館において地域の子どもたちに、わら細工づくり、竹細工づくり、炭焼体験、門松づくりの伝承活動などを行っている。 また、依頼があればどこへでも出掛け指導を行っている。	ポイント 高齢者の持つ技術の伝承 課題 若い世代への加入の呼びかけを行い後継者の育成にも取り組んでいく必要がある。
61			松坂	地域の自然と伝統漁法	松坂自然塾	地域の大人と子供が一緒になり、メダカの保護活動のため湿原の木道整備や、貴重な植物の保護活動を行っている。また、夏には伝統漁法の「大綱引き」を行うこととしている。	ポイント 伝統漁法の継承 課題 漁具の確保
62			神田	地域の自然と伝統郷土食	神田妙見塾	四季折々に地域の子供たちが、里山での体験をとおして活動を展開している。伝統郷土食である笹巻き作りはお年寄りから指導を受けながら実施している。 また、カワニナ・サンショウウオ・ホタルの調査と保護活動と、トラックバス・アメリカザリガニの駆除活動も行っている。	ポイント 地域が一体となった取り組みを展開 課題 スポーツクラブなどに子供たちが参加しているため、ほとんど日曜日は大会や練習日となり、行事の日程をとることが大変である。土曜日に開催できるように調整している。
63			角川	地域の文化、風習	角川里の自然学校	子供たちに農山村の自然や文化を保全しながら伝える活動。「山の学校」、「川の学校」、「食の学校」、「農の学校」、「ものづくり塾」、「民話塾」といった6つの部門を中心に、地元の住民が先生となり活動を展開している。 取り組みは学校活動のみならず、新たな産品開発や環境保全型農業による地域活性化やグリーンツーリズム・エコツーリズムなどの形で都市の住民の受け入れの事業	ポイント それぞれの分野で住民一人ひとりが「里の先生」役を担い、生活文化や知恵を伝承 課題 活動施設の整備

NO	地域名	市町村	活動地域名	伝承テーマ	活動主体(団体名)	活動の内容	ポイント・課題
						も展開し、新しい「山里らしさ」を作り出しつつ、集落住民主導で進められている。	
64		戸沢村	真柄	真柄みこし	真柄みこし会	地域に伝わる神楽舞とその囃子を復活させ伝承している。小学生が囃子を担当し、子供みこしと合わせて夏祭りと神社の祭典等で披露している。	ポイント 中、高校生の参加 課題 練習の日程調整 イベント時の参加者の確保
65	置賜	米沢市	万世地区	万世梓山獅子踊り	万世梓山獅子踊り保存会	・毎年お盆に梓山神社にて上組、下組が1年交替で奉納。 ・上組は法将寺境内で奉納後、梓神社まで道行をして、神社に向かう。 ・下組松林寺にて奉納後、上組と同様神社に集まる。その後、梓神社にてそれぞれの組の奉納がある。 ・目下のところ保存会がしっかりしており、後継者の育成にも力を注いでいる。	ポイント 後継者の育成 課題 後継者の高齢化
66			遠山地区	愛宕羽山両社御神楽	愛宕羽山両社御神楽	毎年、神社の例大祭の時と、8月1日の愛宕山民衆登山祭の時に奉納	
67			広幡地区	広幡音頭	広幡音頭	地区のお祭り、学校行事(運動会など)で披露	課題 子供の減少。ほかのサークル(例えばスポ小)へ移るなどの為、今は休んでいる状態。
68			山上地区	剣舞	米沢一刀流詩吟剣舞会	山上学話会のOBで結成。会津白虎隊と一緒に、墓前奉納などを行い、会津地区との交流を図っている。又、地区の行事(敬老会など)で剣舞を披露するなどの慰安活動も行っている。	
69			山上地区	剣舞	山上学話会	小中高生12~13名で活動。春と秋の上杉神社例大祭で剣舞の奉納	課題 子供の数の減少
70			六郷地区	六中鬼面太鼓	米沢市立第六中学校生徒会太鼓委員会	大太鼓、中太鼓10コを用いて、毎週1回校内で練習。学校の各種行事、地区の文化祭などで披露	
71			六郷地区	豊饒太鼓	六郷町豊饒太鼓推進委員会	毎週土曜日に練習を行い、地区内の行事や米沢市内のイベント等の参加。	ポイント 地域の子供たちとの関わりを大切に継承していくこと。六郷の伝承文化として、地域づくり事業や行事への積極的な参加。 課題 子供たちが中学校に進学すると、自然と遠のいてしまうこと。 後継者育成のため20~30才代の会員の確保。

NO	地域名	市町村	活動地域名	伝承テーマ	活動主体(団体名)	活動の内容	ポイント・課題
72		長井市	長井市内	獅子舞	長井黒獅子研究会	長井小学校の4年生から6年生男女児童30名を対象に、クラブ活動の一環として獅子舞の指導を行っている。 また、学童保育施設において1年生から3年生の児童を対象に獅子舞の指導を行っている。	ポイント 低学年での獅子舞体験等 課題 人口の減少、少子化が進む中で伝統文化である獅子舞の面白さを広く人々に伝え、後世に伝承していくこと等
73		南陽市	南陽市内	昔のあそび体験	夕鶴の里	・毎月第2・4土曜日 ・第2土曜日は昔のあそび体験で語り部の館1階ロビーを開放し、メンコ作り、ケンダマ遊び体験。 ・第4土曜日は昔のあそび『ふれあい』の日で、毎回テーマを設けて身近な材料であそびの先生から遊びを教えてもらう。	ポイント 子どもの興味のあるもの・お金のかからないもの・リサイクルできるものを利用して活動している。 課題 ・参加者の増加と固定 ・子どもの興味のあるものを企画しているつもりではあるが、なかなか合致しないものがある。その場合、講師に迷惑をかけることになる。(よって、なるべく職員での対応となってしまう。)
74	漆山		民話	自主事業実行委員会	・6月～9月までの月2回「夕鶴の里」に集まり、グループ毎に分かれた後、事務局の準備したテキストに沿って指導者から「語り方」の指導を受ける ・講座4回目当たりに中央公民館等で発表。最終回には公開講座落として一般の前で発表。	課題 ・指導者の高齢化 ・参加者に市外の方が多く(大人の方)、地区の伝承者の育成つながらない	
75	置賜		宮内	宮内子供ばやし	子供みこし保存会	夏祭りの1ヶ月前ぐらいから週3～4回。各地区10回程度の活動(合計30回)をしており、指導は地元の方。対象年齢は小学3年生～6年生で、宮内の伝統行事である『夏祭り子供みこし』の際に演奏するお囃子の継承のための楽器の練習	課題 指導者の育成
76		高島町	二井宿	語り部	二井宿語り部の会	地区小学校に出向いて月1回のペースで語り・小学生の練習指導を行っている。	
77			二井宿	笹巻き・たんぼもち作り	二井宿地区グリーンツーリズム研究会	小学校・一般も含めた世代交流を図りながら年に1～2回、地区公民館で実施します。	ポイント 小学生だけと考えると、親子ともに引き継いでゆくように体験することが一番と思う
78			高島町全域	高島町の伝統文化	高島町中学生体験活動事業実行委員会	・地域の食材、食生活の伝承…たんぼもち、冷や汁づくり ・地域の伝統芸能の伝承…まほろば太鼓 ・地域の特徴のある自然の伝承…ゲンジ蛭とカジカ蛙鑑賞 ・地域の文化伝承…語り部・2泊3日の前期と1泊2日の後期に分けて実施。前期では高島町の様々な伝承を体験する。後期ではその中から一つテーマとして選び、中学生の自主的な企画で活動を行う。	課題 ・部活など、あまり地域の活動に参加する機会や時間がない中学生に、どのようにして参加者を確保するか。 ・継続的な事業を行うために、財源を確保していくことが課題である。

NO	地域名	市町村	活動地域名	伝承テーマ	活動主体(団体名)	活動の内容	ポイント・課題
79	置賜	川西町	小松地区	和太鼓	川西ダリヤ太鼓	毎週第2第4日曜日に中央公民館大ホールにて集まり、最初はばちの持ち方、太鼓の基本的なたたき方からはじめ、1曲の持ち歌が披露できるようパート練習や全体練習などを行う。また、和太鼓にとってかかせない魅せる太鼓というパフォーマンスなども一緒に学んでいく。	課題 ・子どもの人数の確保 ・子供たちがいろいろな事業がありすぎて忙しい。 ・発表の場が限られている。
80			小松地区	笹巻き作り	小松地区社会教育振興会	川西町婦人会の協力により、笹の葉取りからゆで方、紐などの調達、子どもたちに笹巻き作りを覚えてもらう。子ども4～5人に対し、講師1名、役員協力員が2～3名がつき、子どもたちにていねいに教えられるような環境を作った。慣れてくると1人で多数作る子も出てきて、最後は大なべでゆでた。ゆであがるあいだに付近の山へ散策に行き、帰るとできあがった笹巻きにきな粉をつけて食した。	
81			犬川地区	地域の自然、伝統	まなぼうクラブ	伝承のテーマ・内容に沿って、年間計画を立て、月一回小学生児童を対象に行っている。	ポイント ・地域の方々が生徒になること。 ・年間の活動を通じてビデオ撮影し、保存している。 課題 いかに子供自ら興味をもてる内容にしていけるか。
82			上小松地区	川西小松豊年獅子踊	川西小松豊年獅子踊保存会	川西小松豊年獅子踊保存会の事業の中で、後継者育成事業に取り組んでいる。内容としては、川西町立第一中学校の生徒を対象に夏休み前に、郷土芸能クラブ員を募集してその希望者に対して毎年夏休みの期間中毎日午後7時から9時までの2時間、川西町中央公民館を会場に小松豊年獅子踊を獅子踊会会員が指導。昨年は、7月25日から8月15日までの22日間伝承活動として実施。	ポイント ・子どものうちから地域のお祭りに積極的に参加させるようにすること。 ・中学校のクラブ活動に郷土芸能クラブを設け、楽校と地域が連携していること。
83			小国町	沖庭地区(古田)	歌舞伎	小国町立沖庭小学校 古田歌舞伎保存会	毎年開催している沖小歌舞伎公演に向け、古田歌舞伎保存会の指導のもと、夏休みから練習を開始。公演で歌舞伎を演じるのは毎年小学校5年生で、演目は「絵本大功記」と「白浪五人男」となっている。
84	白鷹町	鮎川地区	鮎貝七五三獅子舞	鮎貝七五三獅子舞獅子連	1. 舞・太鼓・笛の練習(年10回程度) 2. イベントへの参加(入学式・創立記念式・鮎貝八幡宮祭礼他) 3. 諸会議(年間計画・課題など)	ポイント ・後援会、指導者組織の充実 課題 ・子供の減少	
85	白鷹町	荒砥地区	獅子舞(七五三舞)	荒砥地区獅子育成保存会	・練習 - 6月中旬より1月初めまで。 ・八乙女八幡神社祭礼発表会 - 8	ポイント ・役員も小獅子保護者OBが中心の構成で、地域が主体となった	

NO	地域名	市町村	活動地域名	伝承テーマ	活動主体(団体名)	活動の内容	ポイント・課題
						月16日 ・金刀毘羅神社祭礼発表会 - 9月11日 ・親子行事 - 年1回 ・地域文化発表会 - 1月10日 ・終了式 - 3月上旬	運営になっている 課題 ・参加者が減少してきている。
86			中津川地区	大黒舞	中津川地区 こども会育成会	地区子ども会会員小学1年生から6年生までが一堂に集い、ともに励ましながら『大黒舞』を練習し、学校事業の収穫祭や、中津川雪祭り会場でその成果を発表している。 活動期間は通年としているが、四季折々に指導者より郷土料理(昔のお菓子)作りなどを体験している。	ポイント・課題 過疎化・少子化の影響で年々子どもたちが減少している中で、指導者たちは少しでも長く伝承しようと大人たちの仲間づくりを進めている。
87	置賜	飯豊町	添川地区	蕁文化の暖かさ(わら細工教室)	東部地区子ども会育成部	参加者は、地区の子ども会育成会が中心となり小学校5～6年生約35名程度が参加。指導者は高砂会(老人会)のメンバーが担当。7月:夏休み期間、10月:秋の稲の収穫時期、1月:冬休み時期のそれぞれの季節に活動を展開して、わら細工を伝えるだけではなく、材料となる稲藁について学習を深めていく。 製作した草履や草鞋、藁靴などを地区の文化祭などで披露しながら、冬には実際に身に付けて体験。 協力者として地区公民館担当者は発表の場や会場提供など支援。	ポイント ・高齢者組織の理解と協力、更には学校教育現場の理解。 ・単に藁細工の体験のみではなく、子どもたちの地域の理解につながる「お話会」「お茶会」なども取り入れれば更に充実が期待できる。 ・子どもたちが、指導者となったおじいちゃん・おばあちゃんのお宅に訪問(遊びに)できるようになれば最大の成果といえる。
88			黒川地区	黒川能	黒川能上座、下座	王祇祭りに向け1月4日から1月31日まで継続した練習を毎日行う。黒川能の演目について、それぞれの謡と舞を師匠から伝承する蠟燭能及び水焰の能に出演するため1ヶ月前から練習する。上座、下座の演目が毎年違うため子供たちからはそれぞれの座の支障から演目内容により担当役者を割り当てて子供たちに伝授する。	課題 ・人から人への文化の伝承が難しい。師匠から弟子に完璧にその動作と発声や発音を忠実に伝えなければならない伝承の難しさがある。 ・後継者を絶やさず伝えること、師匠の育成が課題である。
89	庄内	鶴岡市	山五十川	山戸能・山五十歌舞伎	山五十川古典芸能保存会	「玉杉の里子子ども教室」 1.春祭典を目指すお能・歌舞伎の稽古(2～4月) 2.夕日能を目指すお能の稽古(7～8月) 3.学校祭を目指す小学生道行囃子の稽古(8～10月) 4.秋祭典を目指すお能・歌舞伎及び小学生道行囃子の稽古(9～10月) 5.塞土祭を目指すお能の稽古(12～1月) 6.修学旅行先の地域PR活動発表を目指す中学生道行囃子の	ポイント 小学校との相互協力体制、地域住民及び地方自治体の理解と支援 課題 ・地域における人口減・少子化 ・青年の雇用環境の不安定化による稽古時間の確保 ・衣装・道具の更新財源の確保



NO	地域名	市町村	活動地域名	伝承テーマ	活動主体(団体名)	活動の内容	ポイント・課題
						稽古(12~2月) 7.市の要請によるイベント等(17年度は伝統芸能全国フェスティバル)への出演を目指す稽古(去年は8~10月)	
90			飛鳥地区	神楽舞、天狗舞	飛鳥神楽保存会	祭典1ヶ月前から練習に入り、8月15、16日の2日間にわたり頭屋組の各家庭と隣組長宅で舞う。15日夜は飛鳥神社本殿で舞った後、御神体を清める神洗いに同行します。16日も前日残った各戸を舞い、公民館で舞い、地区を行列でまわった後飛鳥神社境内の砂の上で天狗、神楽舞を舞って終了。	課題 後継者の育成と地域の受け皿作り。道具の更新及び修理。浴衣の更新。ユニフォーム新調
91			藤塚	神代神楽	藤塚神代神楽保存会	・村祭り、酒田市民族芸能保存会 ・講演会、地区文化祭、友好出演、酒田市観光協会	ポイント 地区コミュニティ、小学校と連携し地区内の3つの伝承団体が地域で発表することで、子どもたちが地域の良さ、かかわりを持ち、地域全体の活性化につながっている。 課題 地区の子供の数が少なく、大人と一緒に出演するので大変である。
92	庄内	酒田市	亀ヶ崎3~5丁目	双子振り(子供双子振り)	亀ヶ崎子供双子振り	観音堂の例祭に合わせ3月下旬から、小学校高学年に週2~3回学校放課後、正法会館及び境内にて練習を行っている。	
93			北俣字本宮	神楽	本宮神楽保存会	7/15~8/12:練習 8/13.14:本宮地区全戸での演舞 8/17:三上神社大祭	ポイント 以前からの伝統を維持し、品質を低下させないようにするため先輩等のアドバイスをないがしろにせず実践に生かしていくこと 課題 少子化による伝承者の減少
94			字本町自治会	天狗・神楽舞	酒田市字本町自治会		課題 ・後継者の育成 ・青壮年層の認識の甘さの克服 ・就業者の会社等での休暇がままならないこと
95			字本町自治会	寒土(道祖神)祭	酒田市字本町自治会	自治会は男子児童と父兄による集団で大太鼓をたたきながら「ドースベホホー」と掛け声をあげ各戸巡回し一家の子孫繁栄を安全を祈願する	ポイント 行事の歴史的背景の研修伝達が重要 課題 少子化対応、女児禁制の枠をはずす、地域伝承活動に対する財政支援
96			松山地区	松山能	松謡社	年三回講演活動(6.8.1月)、6.1月の公演については有料のため練習期間が長期にわたる。小中学生の練習時間の確保が難しい。	課題 会員の高齢化と新入会員が不足
97			八幡地域 大沢地区	大沢清流太鼓	大沢清流太鼓保存会	・地区の児童3~6年生を対象に月2回程度練習(地区民による指導)	ポイント ・児童数の減少の影響から、演奏曲の編集等を考え継続を図る。

NO	地域名	市町村	活動地域名	伝承テーマ	活動主体(団体名)	活動の内容	ポイント・課題
						・やわた夏まつり、やわた文化祭、地区敬老会、大沢太鼓こども祭り、学校行事等で披露	・大人の太鼓(大沢太鼓・鼓流)との交流を深め、合同演奏や練習を実施し、太鼓の魅力、楽しさを深めていく。 ・地区の文化として残していくために、大沢太鼓こども祭などを通して地区の方々の協力を仰ぎ、活動内容をPRする。
98			山元地区	昔の小正月行事	旧安部家の四季を楽しむ会	毎年2月11日に開催され今年で21回目となる。 去年までは町内の小学生に呼びかけ参加をしていただいた。内容としては餅つき、梨だんごづくり、雪中田植え、雪遊び(ソリ乗り、竹スキーなど)塞道焼きなど昔の小正月に行われたことを、子供たちから体験してもらい昔の生活の様子を肌で感じて頂く。	ポイント 役員等も高齢化してきており、若い人をいかにしてスタッフの一員とするかがポイント。 課題 小学生もスボ少の練習や大会などがあり行事と重なった場合は参加が少ない。少子高齢化が進み、地域に若者が少なく魅力ある地域づくりに取り組むこと。
99			旧坂本部落	坂本獅子踊	坂本獅子踊保存会	8月14日貴船神社奉納。	
100			新町稲荷神社6区自治会	獅子舞及び笛、太鼓	新町稲荷神社獅子舞保存会	例大祭8月9・10日、1月第二土曜・日曜に町内の家々にて獅子舞。 舞方及び太鼓の練習随時、笛の後継者育成の為、今後練習会を予定。	ポイント 活動は大人が中心に行い、後継者育成と地域の文化に慣れ親しむことを目的に、小学3年生くらいの子供たちも参加できるようにしている。今後より多くの子供たちから参加してもらうことが重要。 課題 小学、中学生くらいまでは参加状況が良いが、高校生になると勉強、部活等が忙しいのか参加できない子がほとんど。高校生くらいの時に舞方などを覚えてもらい、継続的に参加できる環境を作ることが今後の課題。
101	庄内	酒田市	松山	わらべ唄の伝承	わらべ唄の会	年2回の発表の場(8月末と1月)において地元小学生(3、4年生中心)とわらべ唄の伝承活動を行っている。	ポイント 俗謡、わらべ唄とも、うたえる人が少なくなり採取し記録、保存などが必要と考える。
102			黒森地区	黒森歌舞伎	黒森歌舞伎妻堂連中	毎年2月に行われる黒森歌舞伎の公演においては、歌舞伎以外にも三番唄、神楽があるため、それらにおいて子役が演舞する。また、歌舞伎に関連して行われる春の例大祭では子供による踊りも毎年披露されている。それぞれに対して黒森歌舞伎妻堂連中が指導にあたる。	ポイント 小学校では総合的学習の課程に組み込んでいるほか、公民館事業においても子どもたちが行う買う木の演舞や太鼓の演奏等、伝統芸能の伝承に寄与。まさしく地域ぐるみでの協力が行われている。 課題 舞台運営には不可欠な大道具等、裏方の後継者育成が課題である。
103			樽橋	樽橋神代神楽	樽橋神代神楽保存会	昭和50年に地区の若者で小さいころに見た神楽を復活し、54年から小4～6年生の子供たちに教え始めた。現在では小3から大学生まで参加している。	ポイント 昭和54年当時に教わった子供たちも何人が会員になり自分の子供にも教え始めている。また8年前、中学生が自主的に参加、

NO	地域名	市町村	活動地域名	伝承テーマ	活動主体(団体名)	活動の内容	ポイント・課題
		酒田市				8月、9月始めた練習に取り組み9/7、8に地区の王池神社に奉納される神代神楽を伝承している。	現在は大学生、中小生と縦の繋がりができ保存の土台もしっかりしてきた。 課題 今後、少子化の中で地区の子供たちもかなり減少になる予定であり、これからどのような活動をしたらよいのか。
104		三川町	青龍寺川(青山地区)	川に親しみ、自然の大切さを学ぶ	三川町公民館	川の水量が比較的少ない時期に、町内を流れる青龍寺川の一部を堰き止め、そこに川魚を放流。園児、児童が川に入って素手で魚とりをする。用事は3メートル四方の水槽に放された川魚を掴み取る。採った川魚の一部は親が調理して現場で食べることも可。参加者からは事業の前に川の中及び土堤を清掃してもらう。	ポイント 町内を流れる川で遊んだり、清掃をしたり、農業等のかかわりを学習したりすることで、より川を身近に親しみを持ってもらえるよう、また、大切にすることを醸成できるように工夫している。 課題 危険である等の理由から、実際にこどもが川で遊べない現状にあるが、より身近な川での自然体験や学習ができないか検討中。
105		庄内町	廻館	皇大神社例大祭の歴史的伝統のある大名行列	廻館供奴保存会	8/3～14まで毎日練習・個別指導、8/15皇大神社前夜祭参加、8/16皇大神社例大祭参加	課題 人員確保が難しくなり技術指導、後継者育成が困難になってきた
106	余目字館		大名行列	余目大名行列保存会	毎年8月下旬より祭典の9月14～15日の前まで八幡境内において午後7時から9時まで練習を重ねその指導にあたっている。	ポイント 町内各小学校、中学校に参加募集の協力を願っている。 課題 組織上5町内と広範囲のため意見の疎通連絡等での苦労と、役員のなり手不足、構成員の高齢化・後継者難である	
107	千河原		ヤヤ祭り・神楽奴振り	千河原氏子会		ポイント ・ヤヤ祭り子供たち参加人数分の冠作りに対する部落全戸の参加・奴振り、神楽子供たちの自主的な練習の元に大人が指導にたずさわる 課題 子供たち主体の祭典のため、今後の少子化問題が継続の問題点少子化、指導者不足	
108	西袋部落、その他		西袋獅子踊り	西袋獅子踊り保存会	部落内安全祈願、五穀豊穡を願う毎年8月13日部落皇大神社へ奉納する。昭和55年復興以来30年間休まず続いている。	ポイント 獅子連中に踊りを任せている、獅子連中12人が一致団結している。 課題 獅子連中が会員サラリーマンであるので練習時間が短いのでどうするか、獅子の役者(子供たちの役者)が少子化に伴い今後どうするか課題	
109	古関		古関部落会民俗芸能	古関部落会民俗芸能保存会	例大祭が8月15日なので、7月1日より一ヵ月半の練習実施	課題 生活基盤の変化に伴う職業の違いから、後継者不足と子どもたちにおいても、昨今スポーツ少年団への参加によって練習時間の	

NO	地域名	市町村	活動地域名	伝承テーマ	活動主体(団体名)	活動の内容	ポイント・課題
							確保は勿論のこと一緒に練習が困難になってきた。 ・保存のための用具等の経費について理解を得ることの困難さ。
110			庄内町吉岡、生三	吉岡、生三獅子舞	吉岡、生三獅子舞保存会	獅子郷、吉岡生三に遠い昔から無形文化財として受け継がれた獅子舞である。伝統の灯りを後継者育成に努力する。	課題 後継者の育成
111			四ヶ村	四ヶ村獅子	四ヶ村獅子保存会	8月15日各部落神社にて獅子踊り奉納、6月中旬よりその為の練習	
112			南野	御頭舞の他数種の舞	南野御神楽舞保存会	7月下旬から8月17日の祭典まで練習会。 小学生(4~6年生)は夕方5時から練習。 祭典では各家々で中学生、大人が御頭舞を披露。	ポイント 若い人からいかに伝統芸能について感心をもってもらえるか 課題 会員の高齢化、後継者をいかにして入会させるか
113			茗荷瀬	茗荷瀬神楽	茗荷瀬神楽保存会	毎年4月17日の集落祭典に神社にて豊作祈願として開かれている	ポイント 地域の風物詩的な位置づけとなること 課題 20代の青年が少なく後継者不足
114			家根合	家根合獅子	家根合獅子保存会	練習中で全部踊れるようになれば休む	ポイント 練習時の飲み食いの経費は惜しまないこと、踊り手は自分の後継者は自分で探そうお願いしている。
115			宮首根	宮首根神楽	宮首根神楽保存会	春祭り5月28日に神楽舞を奉納する部落には8演目ありますが、現在は4演目(天狗舞、神子舞、神楽舞、剣舞)をい奉納しています	課題 後継者の育成、子供たちが少なく剣舞、神子舞を舞うことが大変になってきた
116	庄内	庄内町	西野	西野神楽	西野神楽保存会	皇大神社例大祭の2週間前位から神楽の練習を開始し、当日に備える。他団体のイベント等で公演以来があれば出演に応じる	課題 少子化による後継者不足
117			庄内町跡地内	跡神楽	跡神楽保存会	平成18年の予定ですが、創設以来数百年といわれる跡神楽伝承の為、各演目を小学校春季休校時に練習会を開催し、4月25日の村社天満宮祭典で演じるために準備中。村社天満宮祭典に合わせ3月下旬より青年部神楽連中及び氏子総代より小学校三年生以上を対象とし毎年練習に励んでいる。	課題 将来、少子化の傾向が続くと将来的には問題が生じてくると思う。青年部の務めの関係で祭りの変更を要望されている。
118			余目新田	獅子舞	余目新田獅子舞実行委員会	毎年5月30日、部落祭典に伴う神社外地で獅子舞を披露。	
119			清川地区	清川獅子舞	清川獅子舞保存会	8/18の本祭と翌日の裏祭りの2日間にわたって町内会を練り歩く。子供たちは10日前から練習に入る。また学校行事の学芸会などにも出演。	ポイント 伝承者の後継者育成、ビデオ等で祭り等行事は収録してあるものの、成果だけの継承は困難であり一挙一動練習の段階からの継承が必要となる。 課題 少子高齢化

NO	地域名	市町村	活動地域名	伝承テーマ	活動主体(団体名)	活動の内容	ポイント・課題
120	庄内	庄内町	狩川	狩川奴振り	狩川奴振り保存会	古くから狩川地区鳥町地内(部落)の人たちによって継承されてきたが昭和50年頃より狩川地区の有志青年たちに引き継がれ平成4年に保存会を結成。平成12年に子供奴振り隊を結成され現在にいたる。	ポイント 現在参加している子供たちが中学生、高校生になっても参加できるのであれば大人になっても続けてくれるのではないかと。 課題 誰もが好んで出来ることではない事、経済的に今後ますます苦しくなるので助成金の活用などが課題。
121			庄内町内	和太鼓	キッズ 和太鼓	あまらめ飛龍太鼓創立10周年記念式典 ・梵天感謝祭 ・キラリあまらめ町の駅オープニングセレモニー ・余目第一公民館かがり火まつり ・子供フェスティバル ・地域伝統芸能フェスティバル ・余目夏よい祭り ・鶴岡太鼓フェスティバル ・余目保育園創立祈念&運動会 ・京田川改修事業竣工式 ・庄内町音楽祭 ・余目第三公民館庄内町芸術祭40周年記念公演 ・芸文協新春懇談会 ・余目たんぼぼの会お楽しみ会	ポイント 発表の場では、子供たちの日頃の練習成果を見てもらい、太鼓の良さ、魅力が地域の子供たちの興味をそそり、伝承につながる様に活動する。 課題 会員増員に伴い、練習場所、指導者の確保。購入した楽器の増に伴う保管場所の確保。
122		遊佐町	杉沢地区	国指定重要無形民俗文化財「杉沢比山」	杉沢比山連中	・7月1日～31日まで、週3回19:00～21:30練習 8月6日(仕組)、15日(本舞)、20日(神送り)熊野神社現地奉納公演 ・10月第1日曜日遊佐町民俗芸能公演会出演その他、年3回程度	課題 杉沢比山連中の年齢層は、小学生から70歳代まで幅広いが、後継者の育成が課題。舞手についてはここ数年続けて小学生が加わっているが、囃子方(太鼓・笛・鉦・謡)は固定してしまっている。今後は囃子方の育成にも力をいれていく必要がある。また、子たちへの伝承活動に必要な備品の整備が急務となっている。
123			遊佐町内	地域に伝わる昔話	とんぴんかだりの会	・ここ数年定例化している活動＝遊佐町小学校3～6年生を対象にした語りの実施3学年(10月)4～6学年(6、11月実施) ・17年度に新たに行った活動＝蕨岡地区婦人会研修会での語り、町小学校職員研修会での語り	ポイント 子どもたちは普段の会話で使われなくなった「方言」や、先人の道徳観念を学ぶ良い機会になっている。学社連携事業としてお互いに協理理解しさらに事業の活用を図っていく必要がある。 課題 会員の高齢化があり、人材の確保とあわせ後継者が問題。
124		遊佐町	上蕨岡	延年の舞	蕨岡延年の舞保存会	4月:鳥海山大物忌神社例大祭現地公演に向け打ち合わせ会、年間活動計画の検討、現地公演に向けての練習計3回、鳥海山大物忌神社、鳥海講祭で奉納舞 5月:大物忌神社大御幣奉納舞現地公演 8月:舞研修会 9月:町民俗芸能	ポイント 延年の舞が修験者の時代から神社の祭礼とともに地域を上げて支え継承されてきたという歴史的経緯から、地域の理解と協力なしでは伝承活動は維持できないと。 課題 後継者不足が悩み。特に修験者の修行としての舞という特殊性

NO	地域名	市町村	活動地域名	伝承テーマ	活動主体 (団体名)	活動の内容	ポイント・課題
						公演出演に向けて練習会 10月:遊佐町民俗芸能講演会出演 2月:保存役員会	から男子の舞であるが、稚児舞 においては少子化の進む中、女子 も含めて活動している状況。

## 付録 全国の事例に見る伝統文化伝承教室の課題等

～「平成 16 年度伝統文化子ども教室事例集」より～

秋田県秋田市 / 彫・鍛金・木材工芸・陶芸・漆芸実技研修子ども教室

秋田県山内村 / 山内伝統文化子ども体験教室

茨城県大子町 / 「わたしの里」子ども教室

岐阜県各務原市 / 各務原市きもの着装・礼法（マナー）子ども教室

三重県伊勢市 / 伊勢市伝統生活文化子ども教室

兵庫県南あわじ市 / 灘公民館伝統文化こども教室

兵庫県尾道市 / 伝統文化子ども教室

福岡県福岡市 / 福岡お手玉遊びこども教室

### 課題とその対応

#### 【 秋田県秋田市 / 彫・鍛金・木材工芸・陶芸・漆芸実技研修子ども教室 】

今回開催するに当たり、各小・中学校に受講をお願い致しましたが、希望者がかなりいたものの、午前と午後にまたがり、まる一日の受講という日程では保護者が弁当を持参させなければならないので敬遠されたと聞きました（小・中学校では給食のため、弁当作りは親にとってかなり負担なようです）。今後の募集について、日程や昼食などを含めて一考しなければならない問題がわかりました。

#### 【 茨城県大子町 / 「わたしの里」子ども教室 】

毎回毎回の募集、声かけになってしまいました。毎回内容が違うので、持続した技術の向上という観点ではなく、まず興味があるかないかで、参加者が選んでいたことがその原因でした。

最近の子どもたちは忙しく、土曜日というのはいろいろな行事が重なるようで、参加者を集めるのが大変でした。来年度は、夏休みに回数を多くしてみようと思っています。

冬の一月二月は、峠に雪が多いと参加者が来られないので、日程決めに頭を悩ませました。そして、インフルエンザ！二月・三月は、参加予定者のほとんどがインフルエンザにかかり、とても開講が難しかったので、来年度は十二月までとします。

### 成果・評価

#### 【 秋田県山内村 / 山内伝統文化子ども体験教室 】

・地域の子ども連が地域の大人と交流して、異世代間交流が進み地域に興味を持つようになり、郷土

への愛着心と伝統文化への敬意を払うようになりました。

- ・指導者をできるだけ地域内から選出し、子どもたちと地域の大人がふれ合う機会を設けることができ、異世代間交流が起こる端緒になったことで、双方がコミュニケーションの仕方に気づき、伝統文化の奥深さを学ぶ機会になりました。
- ・茶道・華道の体験を通じて挨拶の大切さや立ち振舞いを意識することにより、社会性や表現力の向上が見られるようになった。
- ・伝統文化体験を基幹として自己同一性の確立が見られ、学校の学習や地域活動などにおいても派生的な効果が得られ、人間関係を構築する力や自己肯定する気持ちが見られ、生活においてもメリハリが見られるようになった。

### 【 岐阜県各務原市 / 各務原市きもの着装・礼法（マナー）子ども教室】

礼法（マナー）にも大変興味をもち、執心に聞いて実技も楽しそうでした。挨拶は最初のうちは小さい声で自信のない様子でしたが、次第に声も大きくなり、自信に満ちて上手にできるようになりました。また家族の方が見学に来て下さったり感謝の言葉も頂きました。

教室の様子が地域の新聞にも掲載されました。子どもたちに感想文を書いてもらったところ「教室がある日が待ちどおしい」「自分で着られるようになって嬉しい」「これからの生活に役立つことを習ったので、しっかり頭に入れておきたい」など、全員が教室に入って本当に良かったという評価でした。

### 【 三重県伊勢市 / 伊勢市伝統生活文化子ども教室】

キャンプなどの野外活動の経験者であっても、屋内でカマドに薪を使ってご飯を炊くという経験がない子どもばかりであった。火起こしから、おにぎり作り、盛りつけなど、どの子どもも大変興味を持ち、何事にも自分から進んで挑戦してくれたことに感激した。

干物は頭を残しただけで、骨まできれいに食べていたのには保護者も驚いていた。子どもたちの声としては、「こんなに干物がおいしいとは思わなかった」「薪で火を起こすのは大変だと思ったけど、みんなで力を合わせて作れて楽しいな、と思った」「また来年もやりたい」と多くの子どもは目を輝かせて口々に言った（小学校三、四年生男子連）。

保護者からは、次のようなお礼状が届いた。「家では何もしない子どもが、あんなふう嬉しそうに魚を焼いたり、おにぎりを作っている姿にびっくりしました。また驚きました。苦労して作ることは、いいことなのですね」（小学四年生の父）

### 【 兵庫県南あわじ市 / 灘公民館伝統文化こども教室】

遊びに関する伝統文化や習得すれば本人にとっても役立つ技能や技術であれば、これからも継続できるし、教室も希望参加者で構成できるとわかった。

何百年と続く芸能にはそれなりの魅力があると思いますが、伝統文化と呼ばれるものに楽しいものは少なく、保護しなければ廃れてしまうようなものが多い。



子どもも小さいうちは練習に参加するが、高学年になり参加することをいやがる子どもを強制的に参加させ、どうやって数え、伝承して行くかがむずかしいのが実状だった。

しかし、公民館の文化祭で衣装をつけて披露している姿は、普段の練習と一変して、やる時はやるんだという子どもの一面を知り、見直した。

#### 【 兵庫県尾道市 / 伝統文化子ども教室 】

伝統文化のすばらしさは、今更述べるまでもない。いずれの世界にもきちんとした作法や手順があり、その作法や手順に従って指導が行われていく。この作法の中には、例えば「相手を思いやる気持ち」ということが具体的に出てきたりする。また、どの道においても「修行・精進」といった言葉が繰り返し出てくる。子どもたちは伝統文化子ども教室に参加しながら、これらのことを直接肌で感じる事ができたように思う。このように考えると、伝統文化に流れている熟練された作法や技、そして高い精神性は「心の教育」に最適であったといえる。

子どもたちは、参加するごとに日本の伝統文化を一つずつ知ることができ、大変有意義な時を過ごしたと思う。それゆえ最後まで、興味・関心がつき続けることはなかった。また、子ども連一人一人に人間的な成長を見ることができた。その端的な表れは、参加した子どもたちの目の輝きである。集中した真剣な目は実に美しいと感じた。一つ一つの体験が、子どもたちの心の成長の種となって、いつの日かすばらしい芽が出ることを祈ってやまない。

#### 【 福岡県福岡市 / 福岡お手玉遊びこども教室 】

回を増すごとに、子どもたちの目つきがさらに真剣になり、講師に対しての言葉使いや礼儀作法も良くなり、友達を思いやる心、人に感謝する心が育ち、講師、参加者共に「参加して良かった、面白かった」と喜びの声がたくさん聞かれました。

お孫さんが遠くにいてなかなか会えない講師は、まるで自分の孫と接するようにあたたかく柔和な気持ちで指導され、子ども連は「おばあちゃん」と講師に声を掛け、ほのぼのとしたあたたかい“ぬくもり”がみちあふれる異世代間交流と伝承文化継承の場となりました。

# 資料編

# 伝統文化の保存伝承活動への支援

## (1) 伝統文化保存団体等を対象としたもの

### 国（文化庁）の支援

事業委嘱先：(財) 伝統文化活性化国民協会

事業名	事業内容	実施主体	費用負担	募集時期等
ふるさと文化再興事業の 「地域伝統文化伝承事業」 【所管：教委文化財保護室】	対象事業：県教育委員会が作成したマスタープランに基づき、伝統文化保存団体が実施する次のいずれかの事業 伝承者の養成、用具等の整備、映像記録等の作成 対象分野：無形文化財、無形民俗文化財、文化財保存技術 等	伝統文化保存団体	予算の範囲内で事業実施に要する経費	3月 市町村照会 4月 県に提出
伝統文化こども教室 【所管：教委社会教育課】	子どもたちに対し、土・日曜日などにおいて学校、文化施設等を拠点とし、茶道、華道、日本舞踊、伝統音楽、郷土芸能などの伝統文化に関する活動を、計画的、継続的に体験・修得でき機会を提供	伝統文化の伝承や普及等の活動を行う各種団体（実行委員会、公民館等を含む）	主に、指導者等への謝金、会場・用具等の借料、教材費等（90万円以内）	1月 市町村照会 3月 県に提出

### 独立行政法人日本芸術文化振興会（芸術文化振興基金）の支援

事業名	対象事業	実施主体	助成額	募集時期等
歴史的集落・町並み保存活用事業 【所管：教委文化財保護室】	歴史的集落・町並み等の文化財の保存・活用を図り、特色あるまちづくりによる地域の文化の振興に寄与する活動 セミナー等の催し、資料の収集・作成・展示活動等の普及啓発活動 上記の活動を継承発展させるうえで必要最小限の範囲で行われる建物の保存・補修及び景観保存活動 対象となる地区は、伝統的建造物群保存対策調査（文化庁国庫補助事業）及びこれに準じる調査実施地区又は調査中の地区	公益法人、特定非営利法人等の団体、地方公共団体 実行委員会も可	自己負担金の範囲 ただし助成対象経費の1/2以内 なお予算の範囲内で算定される。	10月 市町村照会 11月 県に提出
民俗文化財の保存活用事業 【所管：教委文化財保護室】	自ら主催する民俗文化財を保存・活用した特色あるまちづくり活動 民俗文化財の公開、広域交流、復活・復元による伝承 国又は地方公共団体が指定・登録した民俗文化財及び記録選択の無形民俗文化財を対象。			
伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承活動 【所管：教委文化財保護室】	自ら国内で行う以下の活動 伝統工芸技術（国指定を除く）の保存・伝承 衰退した伝統工芸技術の復元 伝統工芸技術の公開 文化財保存技術（国指定を除く）の保存・伝承	伝統工芸技術・文化財保存技術に係る活動団体 実行委員会も可	自己負担金の範囲 ただし助成対象経費以内 なお予算の範囲内で算定される。	

## 財団法人の支援

事業名	対象事業	実施主体	助成額	募集時期等
丸高歴史文化財団の助成 ((財)丸高歴史文化財団) 【所管:教委文化財保護室】	歴史に関する調査、研究 伝統芸能の保存 伝統工芸の維持発展 その他財団の目的を達成するに評価できる事項	山形県内の左記の事項に取り組んでいる個人または団体	10万円～20万円 (総額100万円)	7月 市町村照会 9月 県に提出
地域の伝統文化継承活動 費用助成 (財)明治安田 クオリティライフ文化財団) 【所管:教委文化財保護室】	地域の民俗芸能、地域の伝統的生活技術の後継者育成に必要な技能習得活動や道具整備等	地域の民俗芸能・伝統的生活技術の継承、特に後継者育成のための諸活動に努力している個人・団体	民俗芸能 70万円以内 伝統的生活技術 40万円以内	11月 市町村照会 1月 県に提出
地域文化活動事業助成 ((財)沖永文化振興財団) 【所管:教委文化財保護室】	芸術文化団体が自ら主催し、あるいは他の組織・団体と共催し、又は他の団体を招聘して実施する、伝統民俗芸能公演又は公開事業 芸術文化団体等が実施する伝統民俗芸能の保存伝習事業	芸術文化団体	20万円～50万円 総額300万円	10月 市町村照会 2月 県に提出
伝統芸能に対する助成 ((財)UFJ信託文化財団) 【所管:文化振興課】	各地における民俗芸能の伝承と保存、後継者の育成を図るための事業	アマチュア団体	概ね 30万円～80万円	8月 市町村募集 12月 財団に提出
伝統文化活動支援事業支援 ((財)伝統文化活性化 国民協会) 【所管:教委文化財保護室】	県教育委員会が作成したマスタープランに掲げられている分野別対象活動に準じた活動に対する支援で、用具等の整備(芸能、祭り、工芸技術等に係る楽器、衣装、道具、用具等の修理・購入・復元)を支援の対象とする 対象分野:無形文化財、 無形民俗文化財 等	伝統文化保存団体	支援対象経費(用具等の購入費及び修理費)と収入との差額 予算の範囲内で算定	10月 市町村照会 11月 県に提出
コミュニティ助成事業の 「一般コミュニティ助成事業」 ((財)自治総合センター) 【所管:政策企画課】	コミュニティ活動に直接必要な施設又は設備の整備に関する事業  例)お祭りなどコミュニティ行事に使用する太鼓、御輿、山車、法被等の整備	コミュニティ組織 (自治会・町内会等) 特定目的のために組織された文化団体は除く	100万円から 250万円まで 10万円単位	1次募集 9月 市町村照会 11月 県に提出  2次募集 5月 市町村照会 6月 県に提出

## (2) 地方公共団体を対象としたもの

### 国（文化庁）の支援

事業名	事業内容	実施主体	費用負担	募集時期等
文化体験プログラム支援事業 【所管：教委社会教育課】	子どもたちが日常の生活圏の中で、年間を通じて様々な文化に触れ、体験できるプログラムを作成・実施 音楽、演劇、舞踊、伝統芸能の分野について、1～2日間のプログラムを適宜、複数組み合わせた、通算 15 日間程度の体験プログラムを作成	市町村 実施にあたって市町村、文化団体、文化施設等で実行委員会を組織	対象経費（謝金、旅費等）について文化庁が負担 備品購入費、通信費、広報・印刷費等は開催地が負担	1月 市町村照会 2月 県に提出
「文化芸術による創造のまち」支援事業 【所管：文化振興課】	人材育成：地域文化リーダー（指導者）の育成 団体育成：地域の芸術文化団体の育成 発信交流：シンポジウム等による発信、交流	地方公共団体、芸術文化団体及び文化施設等により構成する実行委員会	文化庁で企画等会議費、指導者・専門家謝金、旅費、練習場借上料を負担	1月 市町村照会 2月 県に提出

### 財団法人地域創造の支援

事業名	事業内容	実施主体	費用負担	募集時期等
地域伝統芸術等保存事業 （映像記録保存事業） 【所管：文化振興課】	各地域の失われつつあり、かつ、記録の少ない伝統芸術等をデジタル映像に記録・保存する事業。	市町村	対象経費の 8/10 以内 (基準額 320 万円)	10月 市町村照会
地域伝統芸術等保存事業 （都道府県イベント事業） 【所管：文化振興課】	地域伝統芸術等の紹介・発表、シンポジウム等の開催	県、関係市町村等による県実行委員会	対象経費から収入を控除した額の 10/10 以内 (基準額 400 万円)	11月 県に提出

## 山形ふるさと塾 推進方針

本県では、地域の教育力や互助などの仕組みにより、子どもたちに生活の知恵や伝統文化などを伝承しながら、地域ごとに特徴のある文化を育んできました。

しかしながら、地域社会は人口減少やコミュニティの希薄化などにより、地域の教育力や互助などの仕組みが次第に失われようとしており、地域にある様々な素晴らしい資源も、伝承する仕組みがないなどの理由から、衰退していく例がみられます。

この結果、山形の将来を担う子どもたちの郷土に対する愛着が次第に薄れ、ひいては、心の拠り所をも失ってしまうことが懸念されています。

このような状況の中、今を生きる私たちにとっては、子どもたちの夢に満ちた未来に向けて何をしていかなければならないのか、また、何を残していくべきかという、「やまがた改革」が謳う「子ども夢未来指向」に立ち返って考えたとき、地域の持つ素晴らしい資源を子どもたちに着実に伝え（「地域力」）、地域への理解と愛着をもった子どもたちを明日の人材としていかに育てていくか（「基盤力」）、ということが大きな課題となっています。

今こそ、子どもたちの郷土愛を地域の力で育てていくため、地域自らが子どもたちに伝えていくべき生活文化や知恵、伝統芸能など伝承していく活動に取り組むことが極めて重要と考えます。

「山形ふるさと塾」は、地域自らが、子どもたちに山形の素晴らしい文化等を伝承していく活動であり、「百年後にも誇りに思える元気な山形」づくりにつながる重要な取り組みの一つとして、多くの県民の理解と協力のもと、県内各地での永続的な展開を目指していくものです。

平成 17 年 10 月 20 日

山形ふるさと塾推進協議会

# 山形ふるさと塾の推進イメージ

## 各地域における山形ふるさと塾の実践のイメージ

### 第1ステップ(17年度)

#### テーマ・地域の選定

地域活動実態調査の実施  
(対市町村)

18年度山形ふるさと塾実施  
地域の把握

- ・実施予定地区の把握
- ・語り部の選定
- ・優良事例の把握及び課題の抽出(マニュアルへの反映)

協力・活用

#### 既存資源の活用



#### 地域の協力

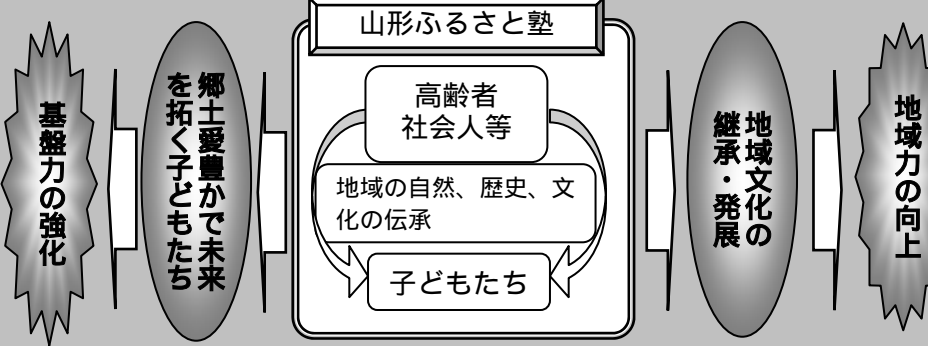
- ・山形ふるさと塾への理解
- ・伝承内容の選定  
(町内会、地区振興会等)

#### 学校の協力

- ・児童生徒のふるさと塾への参加呼びかけ
- ・学校教育との連携推進  
(総合学習等の活用)

### 第2ステップ(18年度)

#### 地域を中心とした活動展開



#### 【実施例】

実践の場：公民館、集会所 等  
 実践組織：語り部を中心とした運営組織  
 時間帯等：放課後、土・日・祝日  
 実施内容：地域の成り立ちの歴史、山岳等の名称・特徴等、わら細工(縄、草履等)、食文化(山菜の利用 等)

#### 県を中心とした活動展開

#### トライアル塾の実施

概要：各総合支庁単位に2カ所程度のトライアル塾を実践  
 目的：先導的な取組みの実践による市町村、住民への意識付け  
 トライアル塾の実践活動を通じた課題の検証

実験フィールドとして連携

#### 活動記録システムの構築に向けた検証

概要：住民が撮影した映像素材を編集・登録・配信する仕組みの試行  
 目的：山形ふるさと塾活動を記録・保存・配信する仕組みの構築に向けた検証

市町村の取組みを先導

#### 県(推進協議会)の取組み(、、)

- ・啓発用リーフレットの作成
- ・語り部の育成
- ・活動記録の保存システムの検証

#### 総合支庁(地域推進協議会)の取組み( )

- ・塾実施における課題の解決
- ・トライアル塾の実践による課題の検証

#### 市町村の取組み( )

- ・塾活動の立ち上げ、継続に向けた地域への支援

### 18年度予算

#### 地域推進協議会の取組み

- ・地域を先導するトライアル塾の実践
- ・総合支庁、教育事務所による地域の課題解決に向けた支援活動の実施

#### 市町村の活動支援(交付金)

- ・市町村が行う特定地域への支援に対する助成  
【例：企画づくり、組織づくり、ワークショップ等】

#### リーフレットの作成・配布

- ・実践事例や語り部などに関するリーフレットを作成・配布

#### 語り部研修・交流会

- ・研修会、交流会の開催による資質向上とネットワークの形成
- ・実践マニュアルの追加・補完

#### 活動記録システムの検証

- ・(財)県生涯学習文化財団と連携し、記録・保存システムの構築に向けた検証

### 課題

#### 仕組みの形成に向けた活動支援

【地域における実践的取り組みの支援】

#### 県民の様々な主体の参加

【活動状況の紹介による県民参加の促進】

#### 活動の拡大に対応した語り部の養成

【地域の様々な課題への解決能力向上】

#### 活動実践の補完機能の検討

【活動記録保存の取り組み】

### 17年度予算

#### 山形ふるさと塾推進協議会

- ・10月20日(木)設立
- ・構成：知事、教育庁、文環部長、各総合支庁長、有識者
- ・内容：協議会の設立、今後の進め方、推進方針

#### 山形ふるさと塾ポータル

- ・12月9日(金)オーヌマホテル
- ・基調講演(ダニエル・カール)
- ・パネリストセッション(齋藤知事、轡田隆史、大友義助、東山昭子、松田道雄)
- ・入場者実績 約300名

#### 地域活動実態調査

- ・実施予定地区の把握
- ・語り部の選定
- ・優良事例の把握及び課題の抽出(マニュアルへの反映)

#### 地域推進協議会の設立

- ・今年度中ブロック毎設立
- ・実態調査等を踏まえ今後の取り組み方向を決定
- ・市町村の活動を積極支援

#### 語り部研修・交流会

- ・語り部の資質向上に係る研修会・交流会
- ・20名程度を対象
- ・3月中旬開催予定(山形市内)

#### 実践マニュアル作成

- ・優良事例等の紹介
- ・伝承のノウハウの紹介
- ・活動継続に活用できる制度の紹介 等